

長岡市障害者生活実態調査報告書 (概要)

集計・分析
長岡大学 米山 宗久

1. 調査目的

- 障害者の生活実態等の把握
- 第6期長岡市障害者基本計画・障害福祉計画、第1期障害児福祉計画の基礎資料
(令和3年度～令和6年度)

2. 調査設計と回収結果

調査区分	(1)在宅者調査			(2)施設入所者調査	(3)高齢者調査
調査対象	障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳)を所持している18歳以上65歳未満の方			新潟県内の障害児・者入所施設に入所している18歳以上の方	障害者手帳(身体障害者手帳(10%抽出)、療育手帳、精神保健福祉手帳)を所持している65歳以上の方
調査票名称(略称)	調査票A (A票)	調査票B (B票)	調査票C (C票)	調査票D (D票)	調査票E (E票)
所持している障害者手帳による区分	身体障害者手帳	療育手帳	精神保健福祉手帳		身体障害者手帳 療育手帳 精神保健福祉手帳
調査方法	配票・回収ともに郵送法				
対象者数(送付数)	2,020人	1,352人	1,589人	413人	1,192人
有効回収数	1,235人	857人	975人	250人	841人
有効回答率	61.1%	63.4%	61.4%	60.5%	70.6%
調査基準日	令和元年8月1日				
調査期間	令和元年9月24日～10月7日				

調査区分	(4)障害児調査				
調査対象	障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳)を所持している18歳未満の方				
	就学前児童	小学校段階	中学校段階	高等学校段階	義務教育修了後・高等学校等に未就学
調査票名称(略称)	調査票F-1 (F-1票)	調査票F-2 (F-2票)	調査票F-3 (F-3票)	調査票F-4 (F-4票)	調査票F-5 (F-5票)
所持している障害者手帳による区分	身体障害者手帳、療育手帳、精神保健福祉手帳				
調査方法	配票・回収ともに郵送法				
対象者数(送付数)	615人				
有効回収数	56人	112人	85人	91人	3人
有効回答率	56.4%				
調査基準日	令和元年8月1日				
調査期間	令和元年9月24日～10月7日				

3. 主な調査項目

- H28 調査と今回調査の経年比較を基本とし、調査項目はH28 調査と概ね同様
- A票、B票、C票は、就労状況と就労意向
- D票は、地域生活移行に対する意向
- E票は、介護保険サービス利用状況
- F票は、受けている教育（療育）段階に応じて、学校・サービス・就労・進路など
- A～F票に新たに文化・スポーツの設問を入れた。

項目	在宅者調査 A票、B票、C票	施設入所者調査 D票	高齢者調査 E票
基本属性	○	○	○
生活の場について	○	○	○
文化・スポーツについて	○	○	○
就労について	○		
介護保険サービスの利用について			○
入院・通院について	○		○
外出について	○	○	○
相談窓口について	○	○	○
災害時について	○		○
障害のある人への差別について	○	○	○

項目		F-1票	F-2票、F-3票 F-4票	F-5票
共通回答項目 (Ⅰ)	基本属性			
	文化・スポーツについて			
	相談窓口について			
	相談支援ファイル「すこやかファイル」について			
	預かりサービスについて			
	障害のある人への差別について			
個別回答項目 (Ⅱ)	学校について		○	
	サービス利用について	○	○	
	就労について			○
	生活の場について			○
	外出について			○
	相談場所について	○	○	○
	保育園や幼稚園、認定こども園の利用について	○		
	個別の教育支援計画及び指導計画について		○	
	進学・進路先について	○	○	

4. 基本属性

(1) 回答者

調査票の回答者について尋ねた。

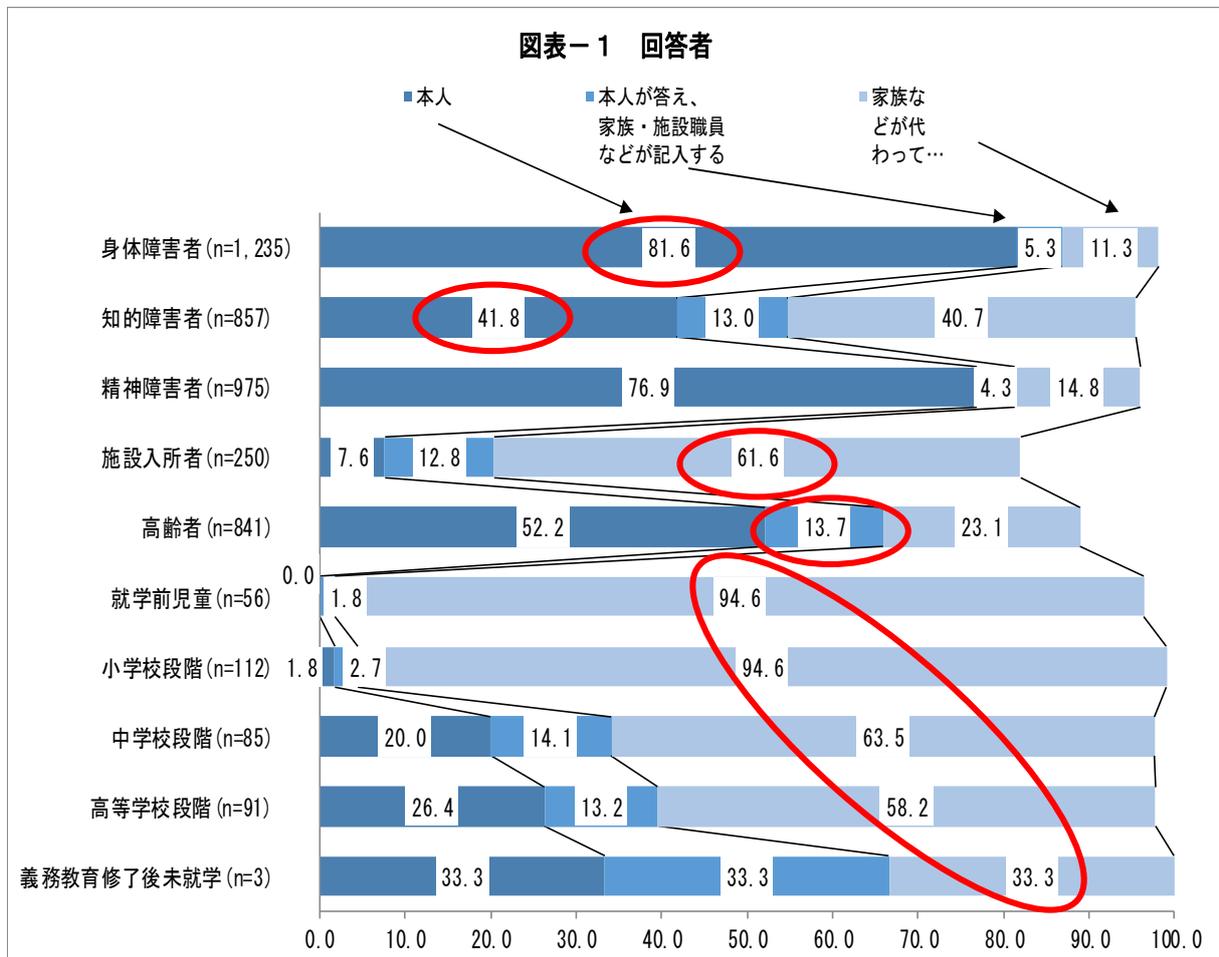
「本人」「本人が答え、家族・施設職員などが記入する」「家族などが代わって答える」「施設職員が代わって答える」「その他」の5項目とした。

「本人」では、「身体障害者」が81.6%と最も高く、次に「精神障害者」が76.9%である。

「本人が答え、家族・施設職員などが記入する」では、「高齢者」が13.7%と最も高い。

「家族などが代わって答える」では、「障害児（就学前児童）」と「小学校段階」がともに94.6%と最も高く、次に「中学校段階」が63.5%である。また「施設入所者」も61.6%である。

「その他」では、成年後見人・保佐人の回答があった。



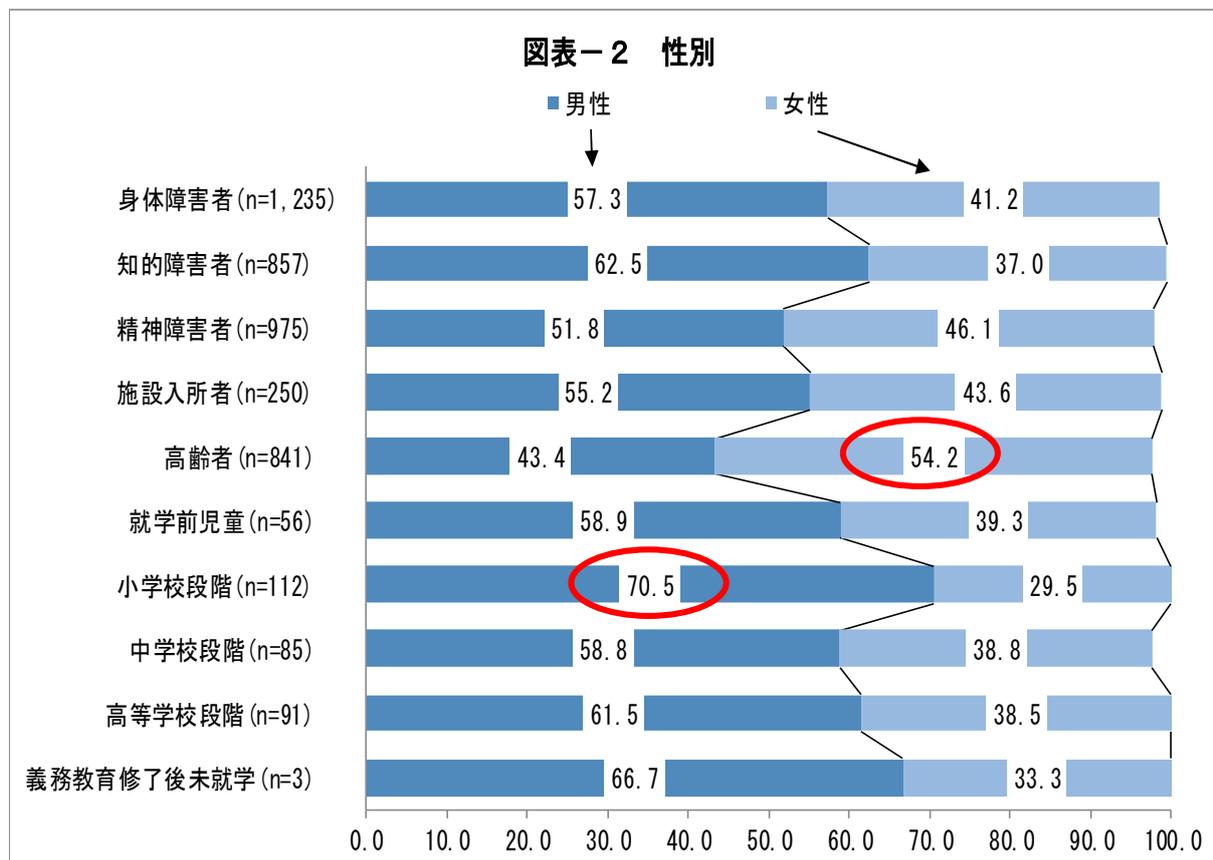
※上記3項目以外と無回答は割合が低いため除いてある。

(2) 性別

性別について尋ねた。

「男性」（義務教育修了後未就学を除く）では、「小学校段階」が70.5%と最も高く、次に「知的障害者」が62.5%、「高等学校段階」が61.5%である。

「女性」では、「高齢者」が54.2%と最も高く、次に「精神障害者」が46.1%、「施設入所者」が43.6%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

(3) 年齢

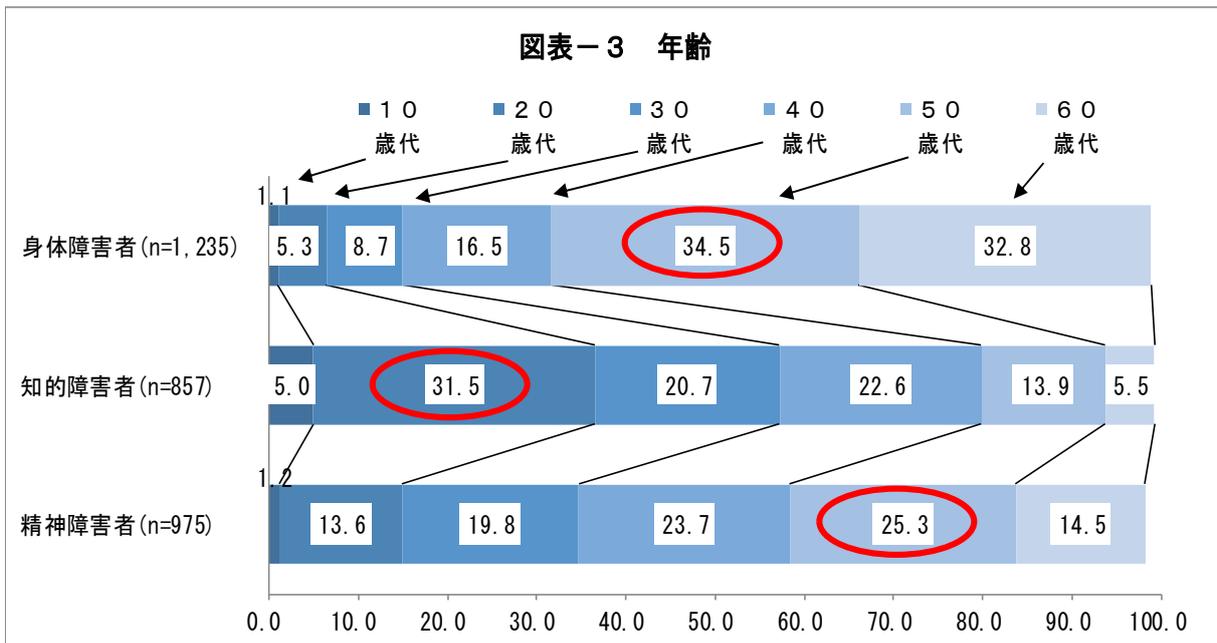
年齢について尋ねた。

①身体障害者・知的障害者・精神障害者の年齢

身体障害者では、「50歳代」が34.5%と最も高く、次に「60歳代」が32.8%である。

知的障害者では、「20歳代」が31.5%と最も高く、次に「40歳代」が22.6%である。

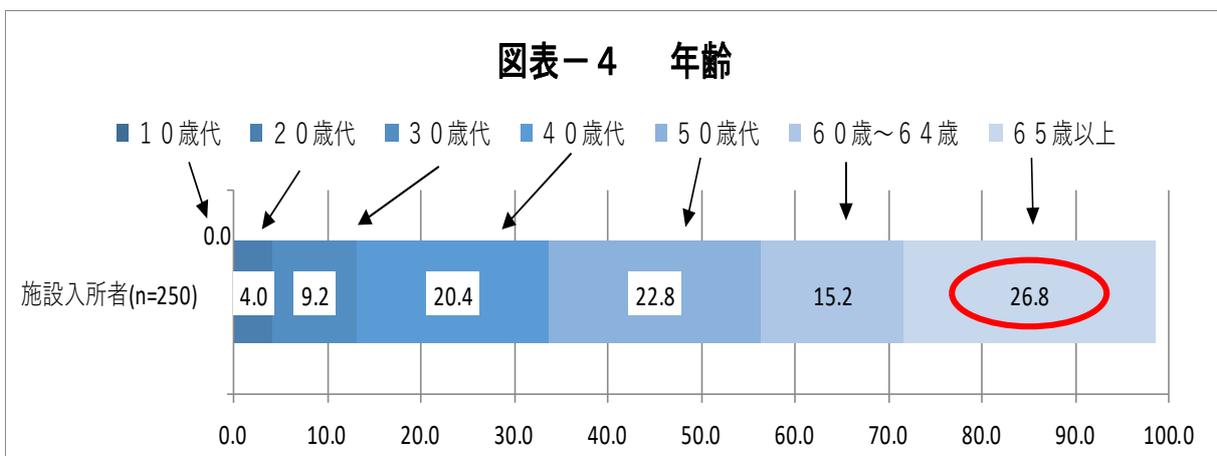
精神障害者では、「50歳代」が25.3%と最も高く、次に「40歳代」が23.7%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

②施設入所者の年齢

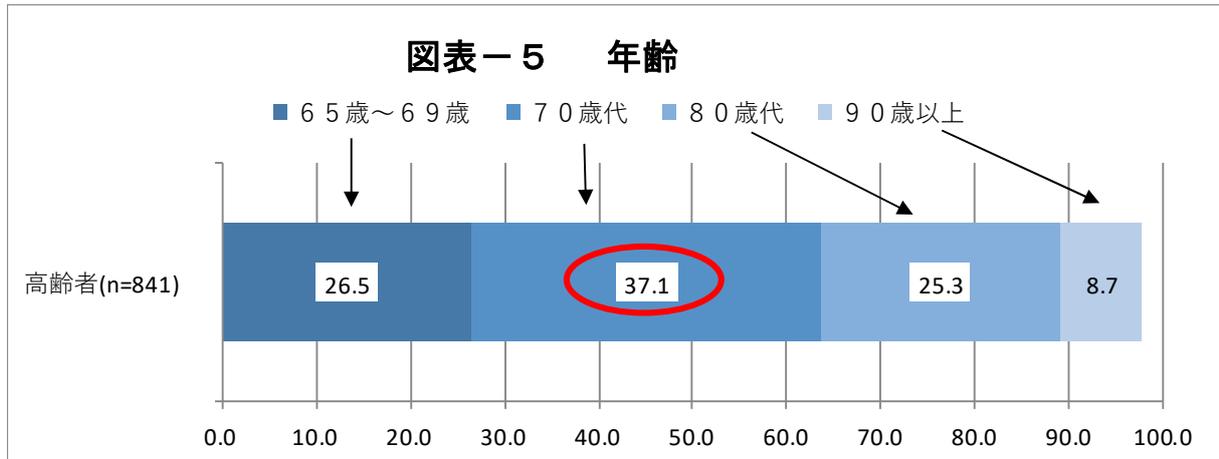
「65歳以上」が26.8%と最も高く、次に「50歳代」が22.8%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

③高齢者の年齢

「70歳代」が37.1%と最も高く、次に「65歳～69歳」が26.5%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

(4) 障害の種類・等級

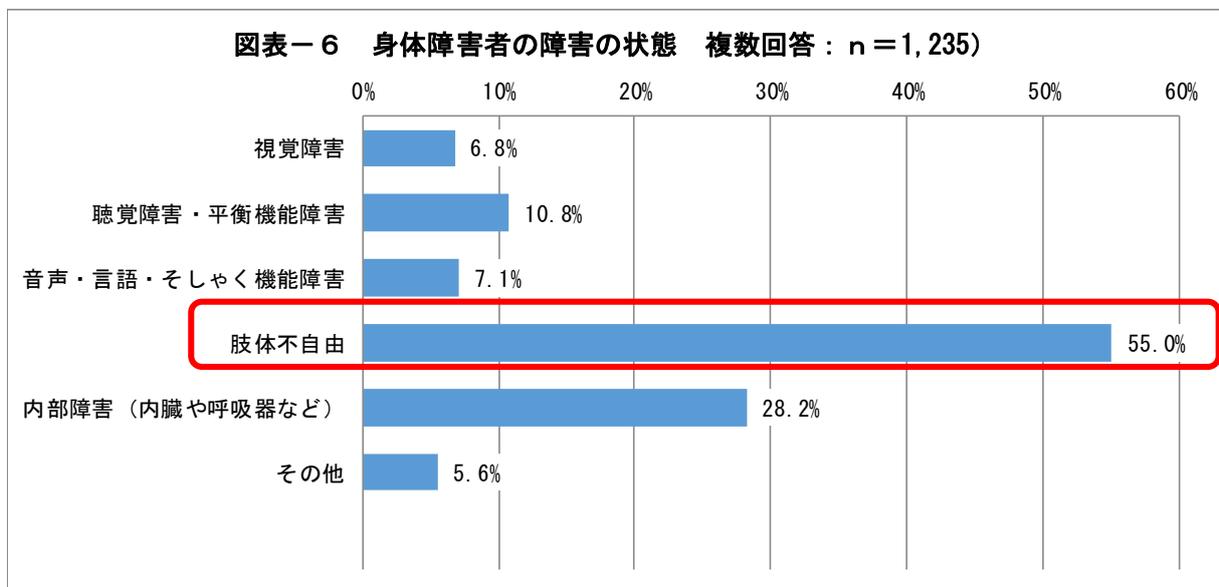
障害の種類と総合等級について尋ねた。

「身体障害者手帳」「療育手帳」「精神障害者保健福祉手帳」の3項目とした。

①身体障害者の障害の状態

複数回答として回答してもらった。

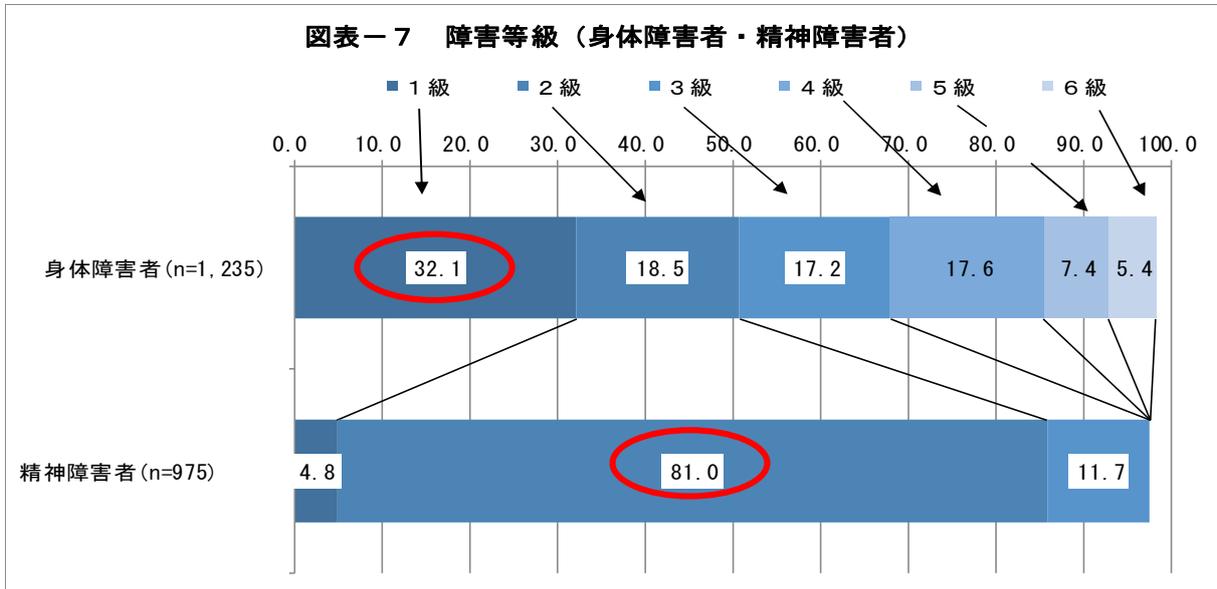
「肢体不自由」が55.0%と最も高く、次に「内部障害（内臓や呼吸器など）」が28.2%、「聴覚障害・平衡機能障害」が10.8%である。



②身体障害者と精神障害者の障害等級

身体障害者では、「1級」が32.1%と最も高く、次に「2級」が18.5%、「4級」が17.6%である。

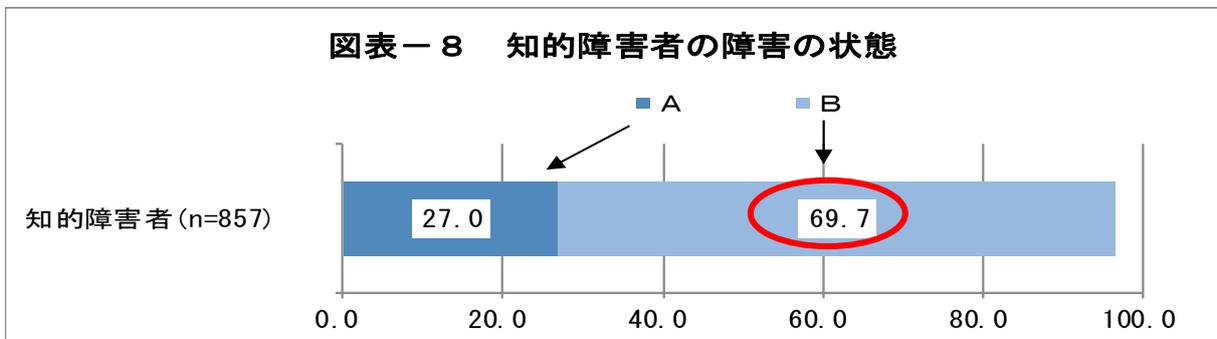
精神障害者では、「2級」が81.0%と最も高く、次に「3級」が11.7%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

③知的障害者の障害等級

知的障害者では、「B」が69.7%と最も高く、次に「A」が27.0%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

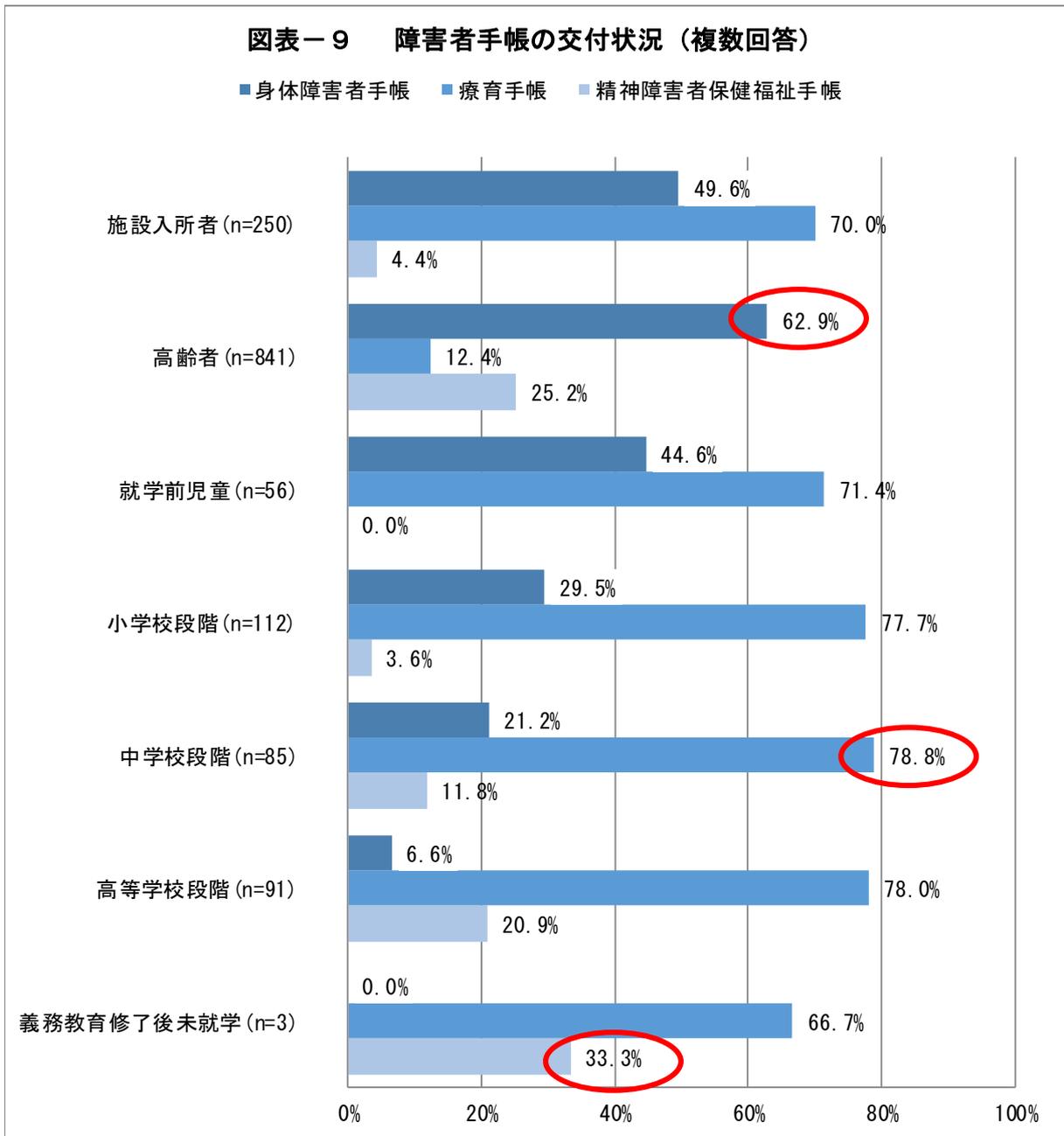
④施設入所者、高齢者・障害児の障害者手帳交付状況

複数回答として回答してもらった。

身体障害者手帳では、「高齢者」が62.9%と最も高く、次に「施設入所者」が49.6%である。

療育手帳では、「中学校段階」が78.8%と最も高く、次に「高等学校段階」が78.0%である。全般的に障害児の割合が高い。

精神障害者保健福祉手帳では、「義務教育修了後未就学」が33.3%と最も高く、次に「高齢者」が25.2%である。



5. 生活の場について

①住居形態

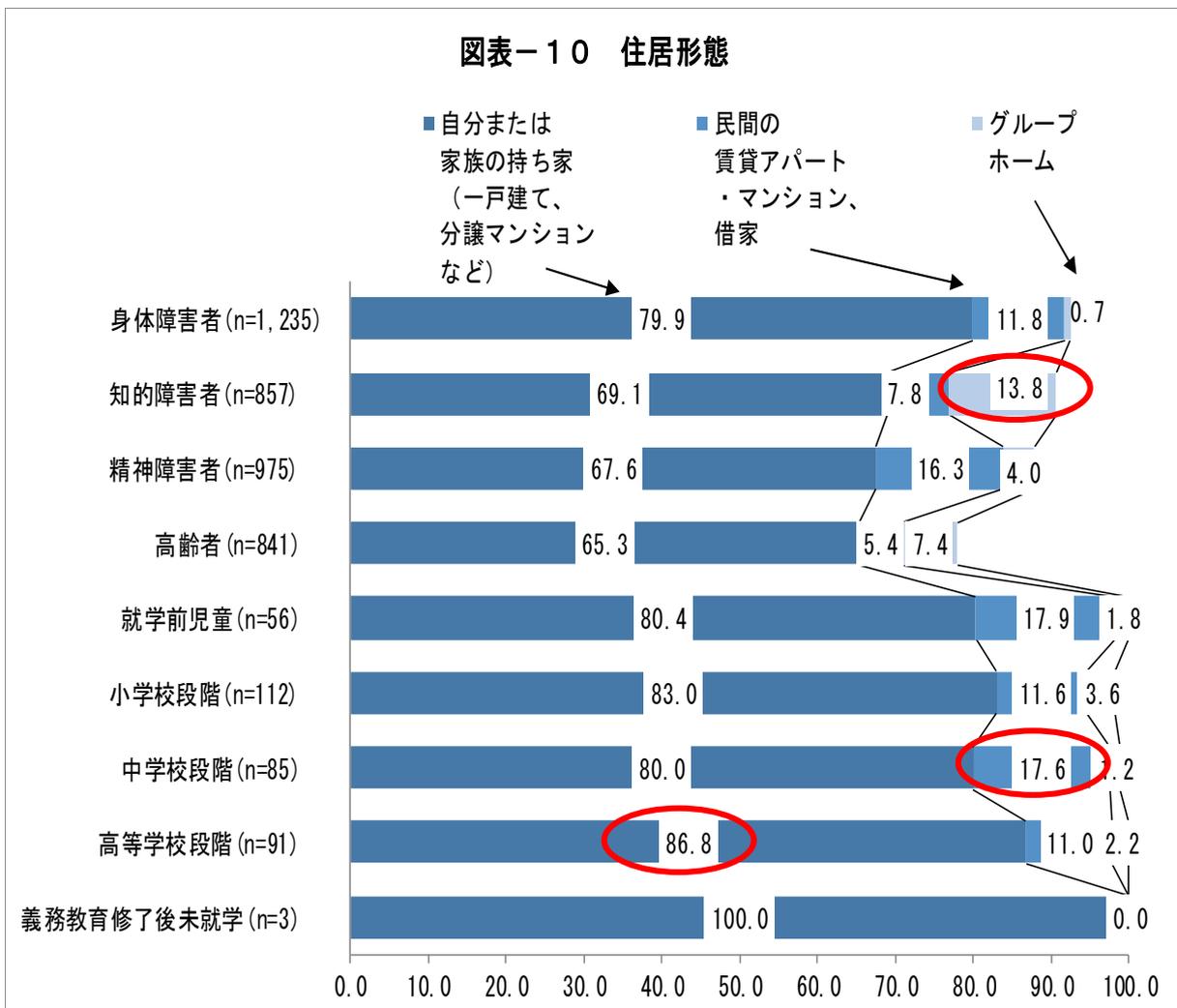
住居の形態を尋ねた。

「自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）」「民間の賃貸アパート・マンション、借家」「市営住宅、県営住宅」「グループホーム」「その他」の5項目とした。

「自分または家族の持ち家（一戸建て、分譲マンションなど）」（義務教育修了後未就学を除く）では、「高等学校段階」が86.8%と最も高く、次に「小学校段階」が83.0%、「就学前児童」が80.4%である。

「民間の賃貸アパート・マンション、借家」では、「就学前児童」が17.9%と最も高く、次に「中学校段階」が17.6%、「精神障害者」が16.3%である。

「グループホーム」では、「知的障害者」が13.8%と最も高い。



※上記3項目以外と無回答は割合が低いため除いてある。

②世帯構成

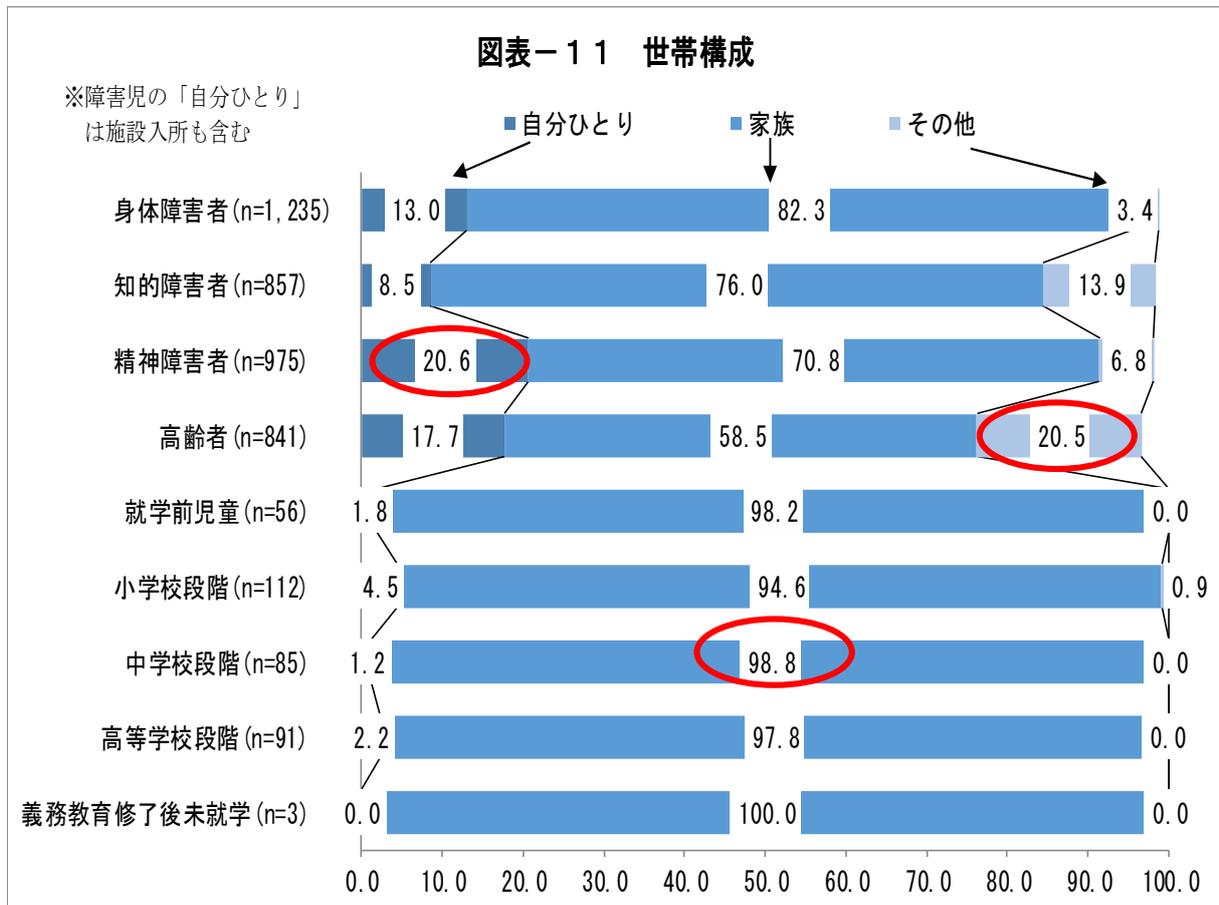
世帯構成を尋ねた。

「自分ひとり」「家族」「その他」の3項目とした。

「自分ひとり」では、「精神障害者」が20.6%と最も高く、次に「高齢者」が17.7%、「身体障害者」が13.0%である。

「家族」（義務教育修了後未就学を除く）では、障害児である「中学校段階」が98.8%と最も高く、次に「就学前児童」が98.2%、「高等学校段階」が97.8%である。また「身体障害者」も82.3%である。

「その他」では、「高齢者」が20.5%と最も高く、次に「知的障害者」が13.9%である。具体的には、病院や福祉施設が多かった。



※無回答は割合が低いため除いてある。

③昼間に利用したいサービスや支援

利用したいサービスや支援を尋ねた。

「ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事援助を受けたい」「サービスや支援は必要ない」を含めて11項目を複数回答とした。

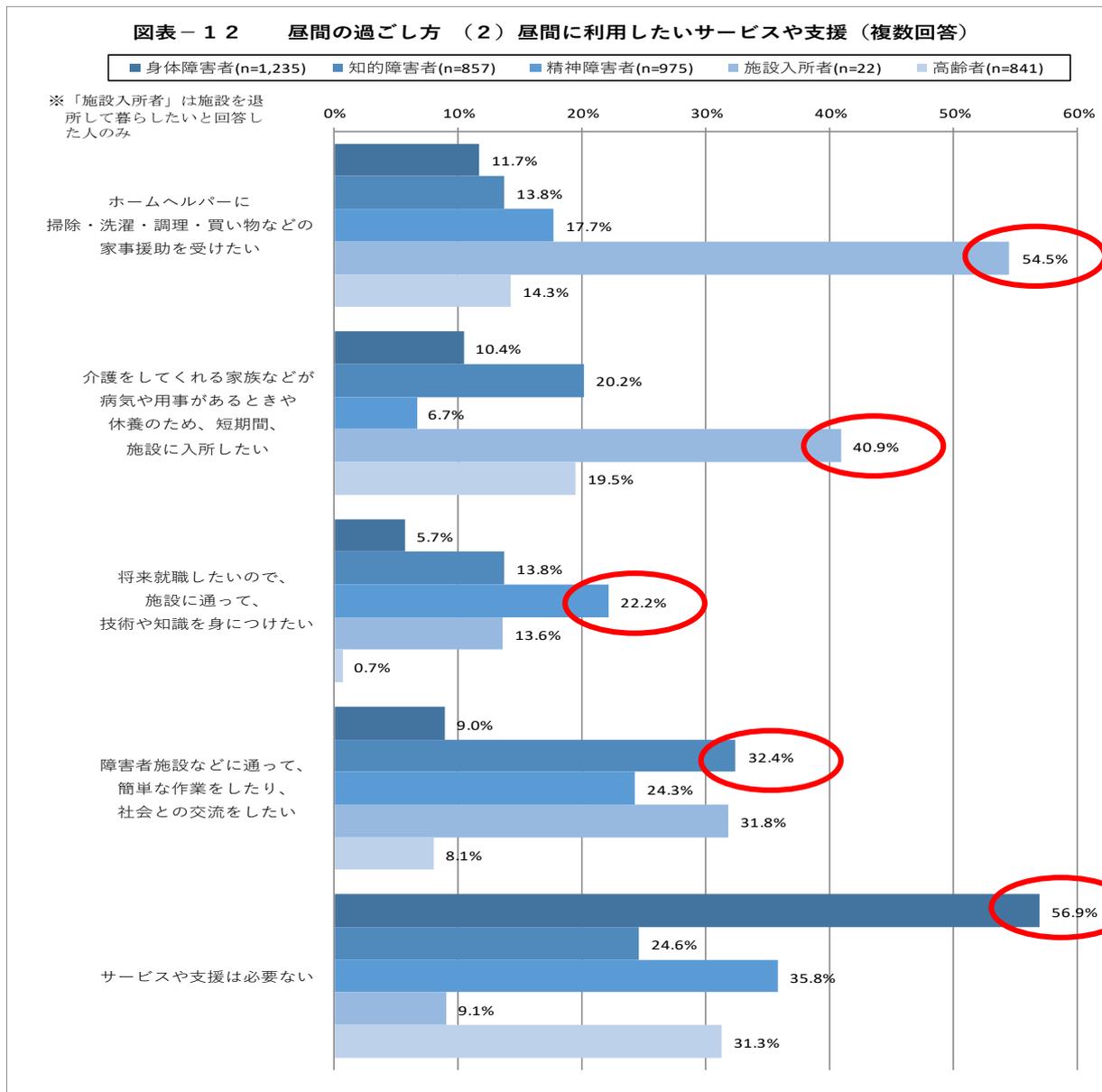
「ホームヘルパーに掃除・洗濯・調理・買い物などの家事援助を受けたい」では、「施設入所者」が54.5%と最も高い。

「介護をしてくれる家族などが病気や用事があるときや休養のため、短期間、施設に入所したい」では、「施設入所者」が40.9%と最も高い。

「将来就職したいので、施設に通って、技術や知識を身につけたい」では、「精神障害者」が22.2%と最も高い。

「障害者施設などに通って、簡単な作業をしたり、社会との交流をしたい」では、「知的障害者」が32.4%と最も高い。

「サービスや支援は必要ない」では、「身体障害者」が56.9%と最も高い。

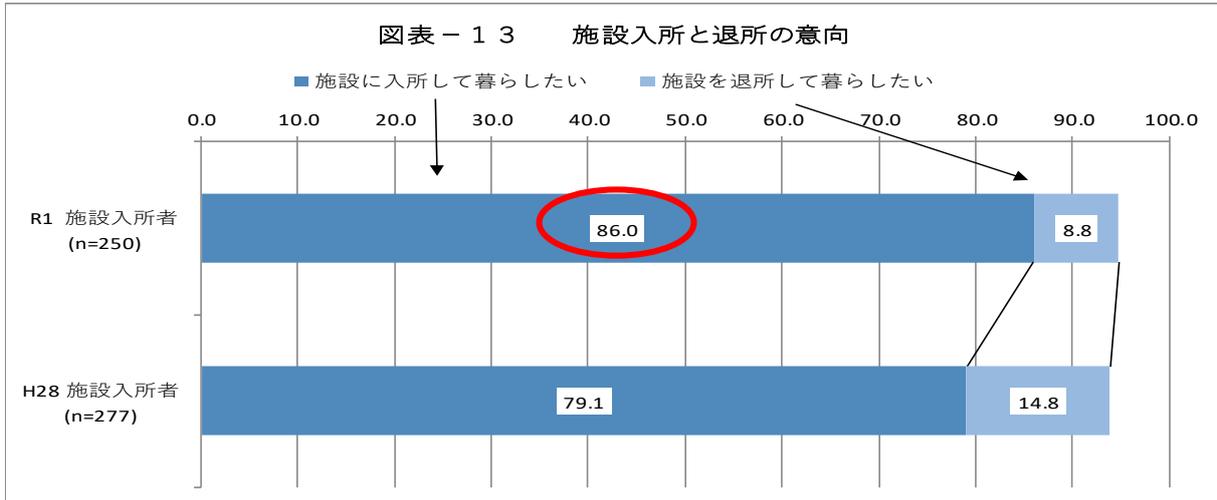


④施設入所と退所の意向（D票）

「施設に入所して暮らしたい」「施設を退所して暮らしたい」を尋ねた。

「施設に入所して暮らしたい」が86.0%と高く、「施設を退所して暮らしたい」が8.8%と低い。

H28と経年比較すると、「施設に入所して暮らしたい」は7ポイントほど高い。

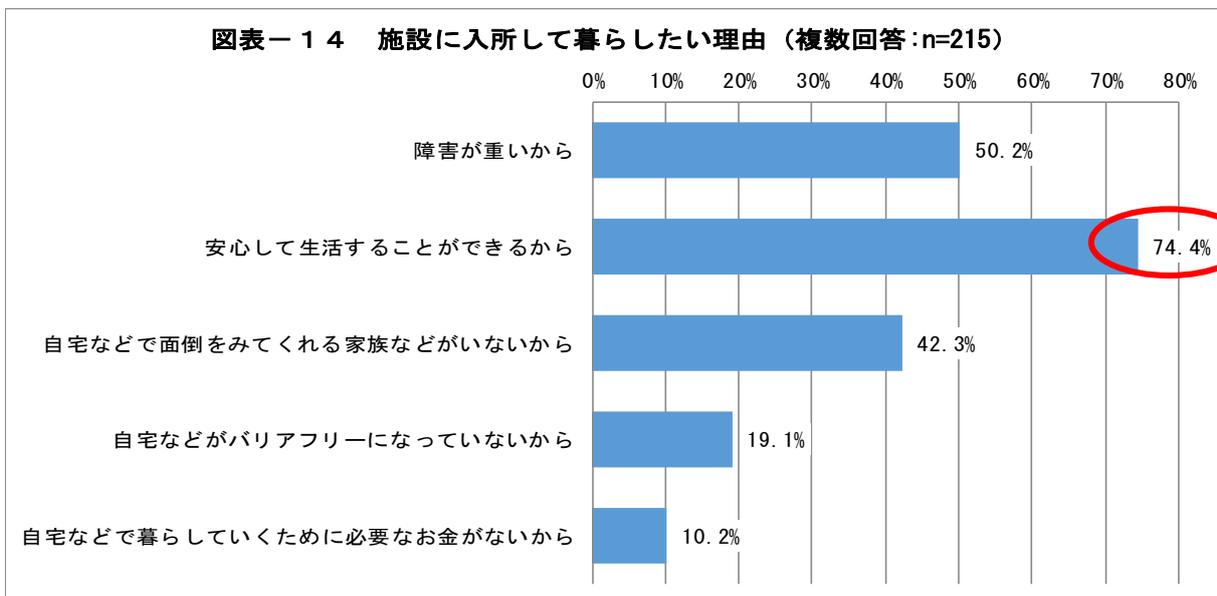


※無回答は割合が低いため除いてある。

⑤施設入所と退所の意向（D票）

「障害が重いから」「安心して生活することができるから」「自宅などで面倒をみてくれる家族などがないから」を含めて7項目を複数回答とした。

「安心して生活することができるから」が74.4%と最も高く、次に「障害が重いから」が50.2%、「自宅などで面倒をみてくれる家族などがないから」が42.3%である。



6. 文化・スポーツについて

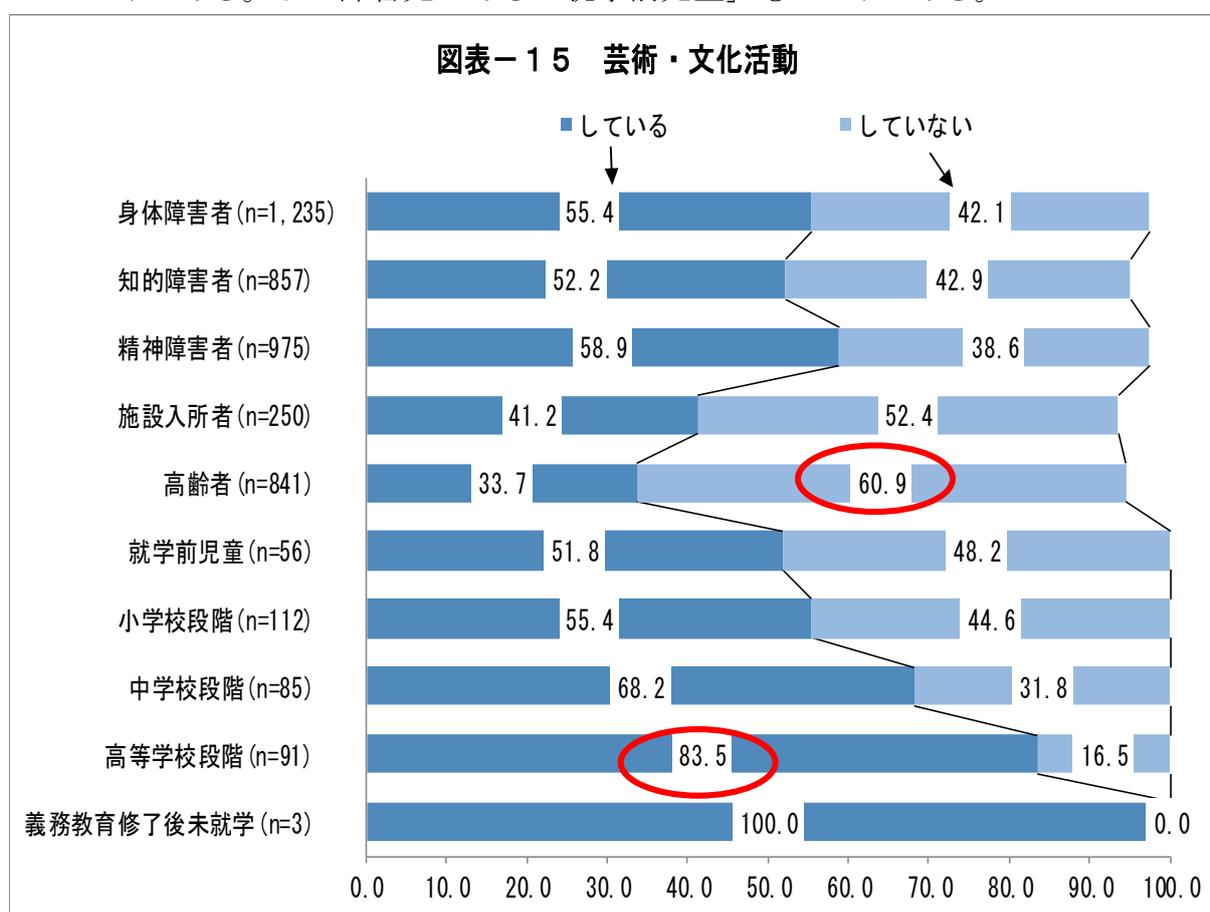
①芸術・文化活動

「している」「していない」を尋ねた。

「している」（義務教育修了後未就学を除く）では、障害児である「高等学校段階」が83.5%と最も高く、次に「中学校段階」が68.2%である。また「身体障害者」も55.4%である。障害児は年齢が上がるごとに活動を行っている。

「している」の具体的内容は、「音楽鑑賞」「映画鑑賞」が多く、障害者では「カラオケ」「絵画」「創作活動」が見られる。また障害児では、「学校の授業」が見られる。

「していない」では、「高齢者」が60.9%と最も高く、次に「施設入所者」が52.4%である。また障害児である「就学前児童」も48.2%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

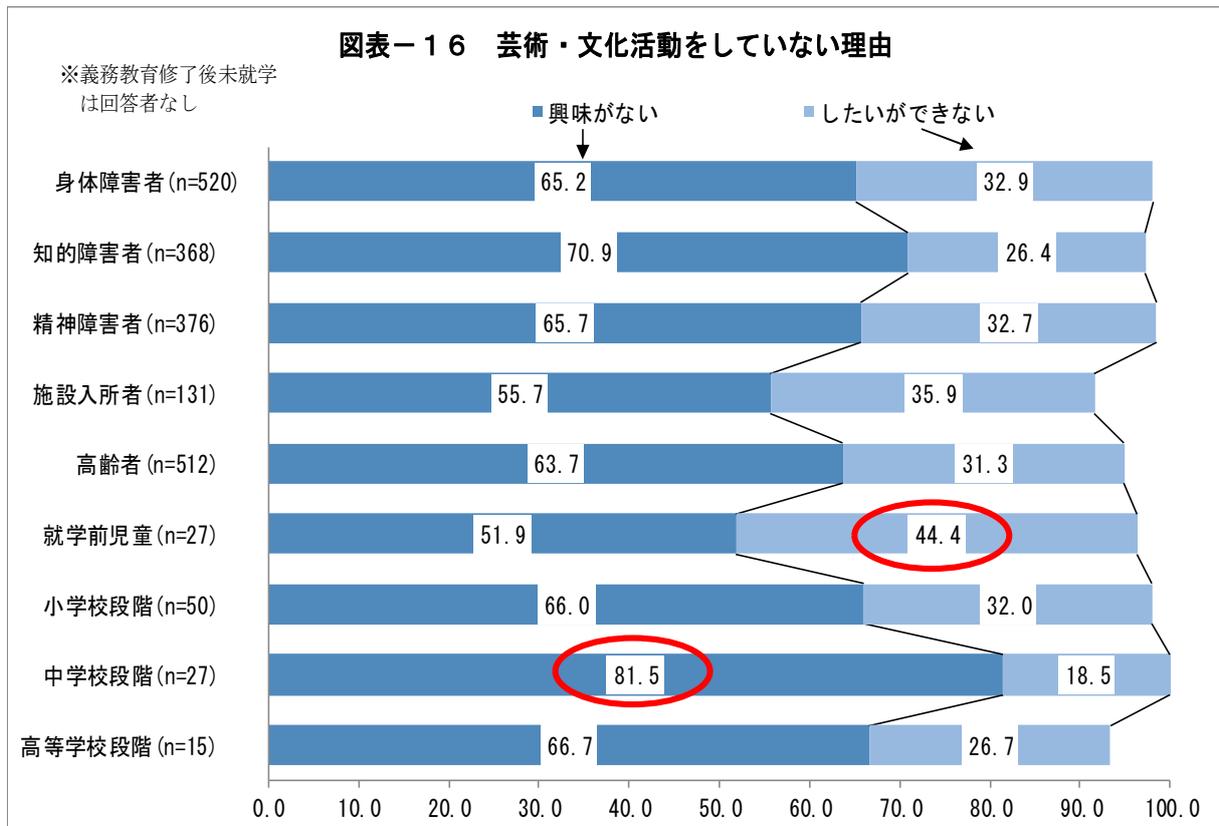
②芸術・文化活動をしていない理由

「興味がない」「したいができない」を尋ねた。

「興味がない」では、障害児である「中学校段階」が81.5%と最も高く、次に「知的障害者」が70.9%である。

「したいができない」では、障害児である「就学前児童」が44.4%と最も高く、次に「施設入所者」が35.9%、「身体障害者」が32.9%である。

「したいができない」の具体的内容は、「障害が重い」「体調不良」「一緒に行く人がいない」「余裕がない」「お金がない」「大勢のところ苦手」が多く、障害者では「障害が重い」「体調不良」が見られる。また障害児では、「理解ができない」「迷惑をかける」が見られる。



※義務教育修了後未就学は回答数が少ないため、無回答は割合が低いと除いてある。

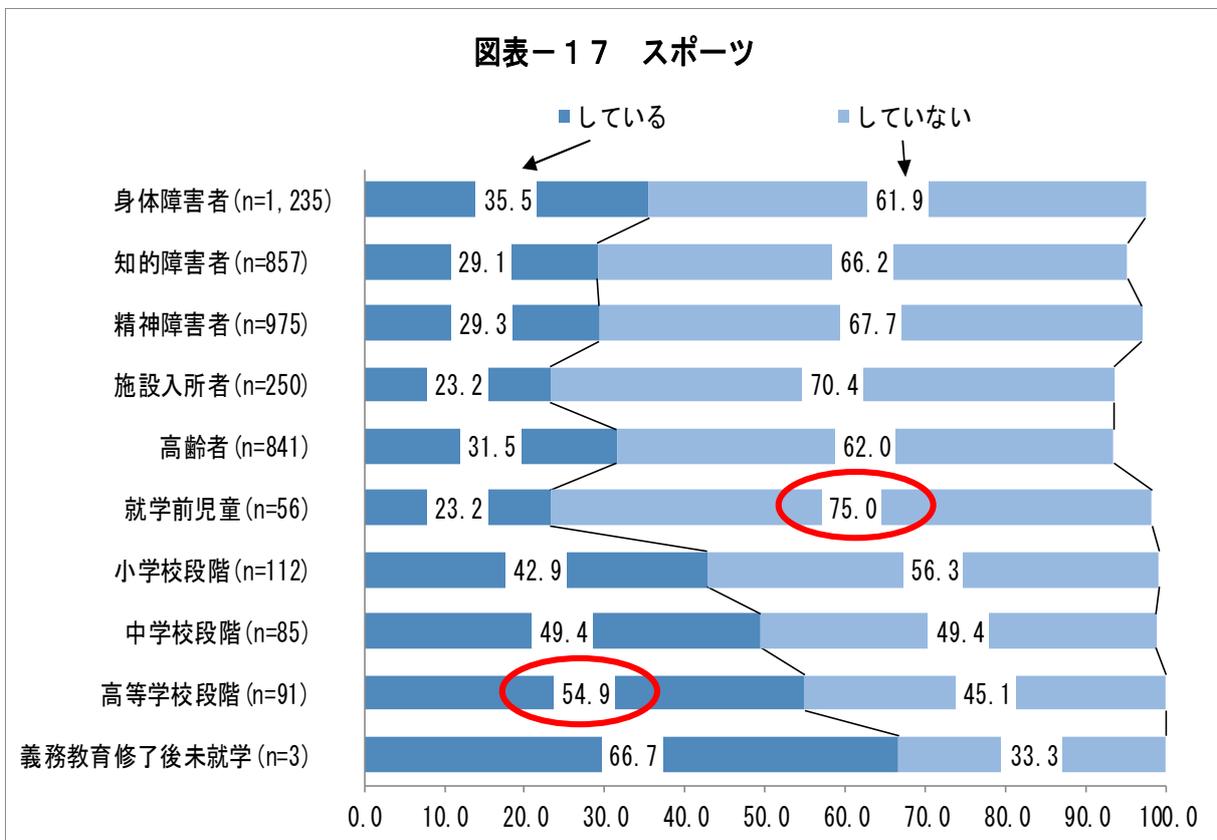
③スポーツ

「している」「していない」を尋ねた。

「している」（義務教育修了後未就学を除く）では、障害児である「高等学校段階」が54.9%と最も高く、次に「中学校段階」が49.4%である。また「身体障害者」も35.5%である。障害児は年齢が上がるごとに活動を行っている。

「している」の具体的内容は、「スポーツ観戦」「スポーツ実践」が多く、障害者では「ジョギング・ウォーキング」「レクスポーツ」「筋力トレーニング」が見られる。また障害児では、「学校の授業」「水泳」「体操」が見られる。

「していない」では、障害児である「就学前児童」が75.0%と最も高く、次に「施設入所者」が70.4%である。また身体障害者、知的障害者、精神障害者、高齢者は、ともに60%以上である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

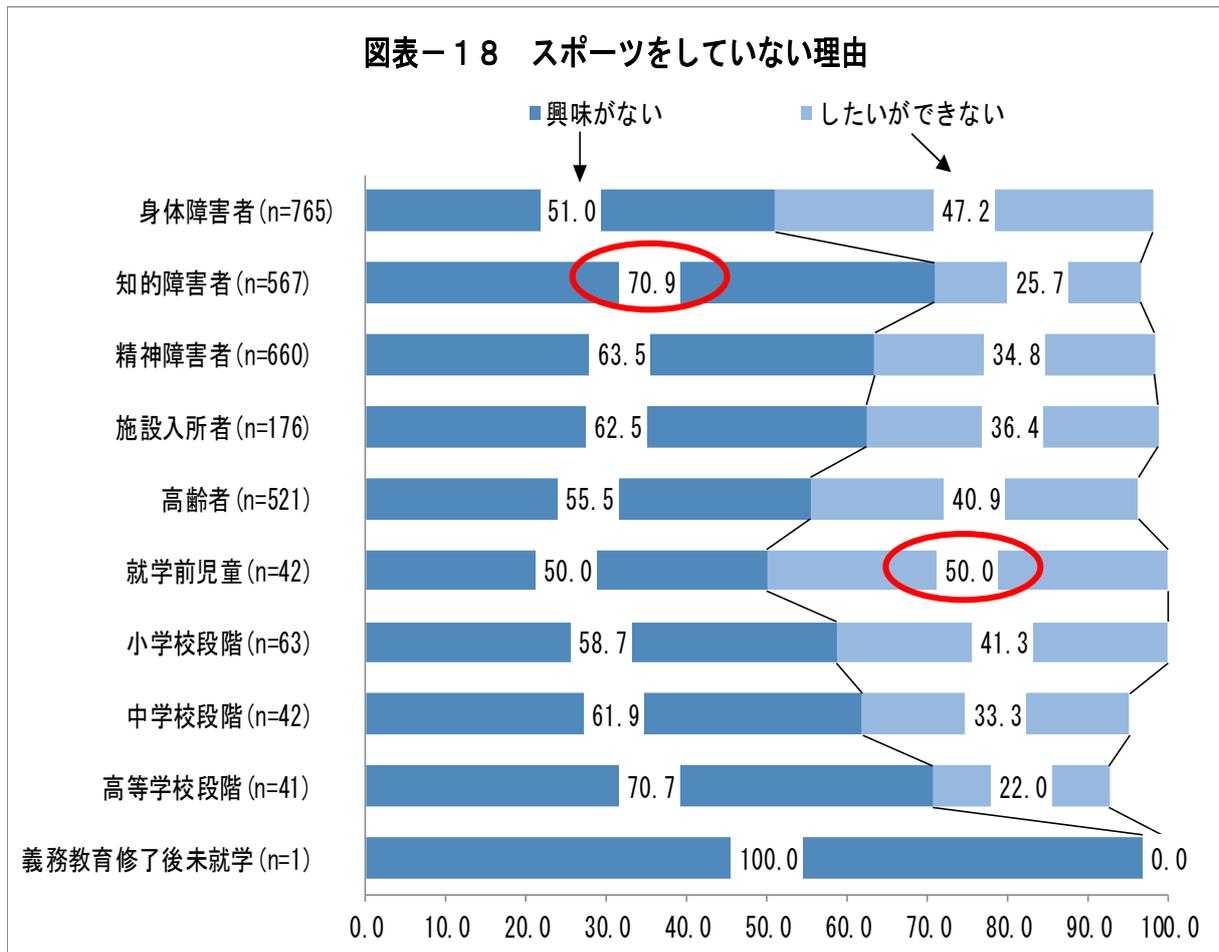
④スポーツをしていない理由

「興味がない」「したいができない」を尋ねた。

「興味がない」では、「知的障害者」が70.9%と最も高く、次に障害児である「高等学校段階」が70.7%である。

「したいができない」では、障害児である「就学前児童」が50.0%と最も高く、次に「身体障害者」が47.2%、「小学校段階」が41.3%である。

「したいができない」の具体的内容は、「障害が重い」「体調不良」「能力がない」「向いているスポーツがわからない」「開催場所がわからない」が多く、障害者では「気力がない」「時間が作れない」が見られる。また障害児では、「理解ができない」「場所が限られる」「体力がない」が見られる。



※義務教育修了後未就学は回答数が少ないため、無回答は割合が低いいため除いてある。

7. 就労について

①就労状況

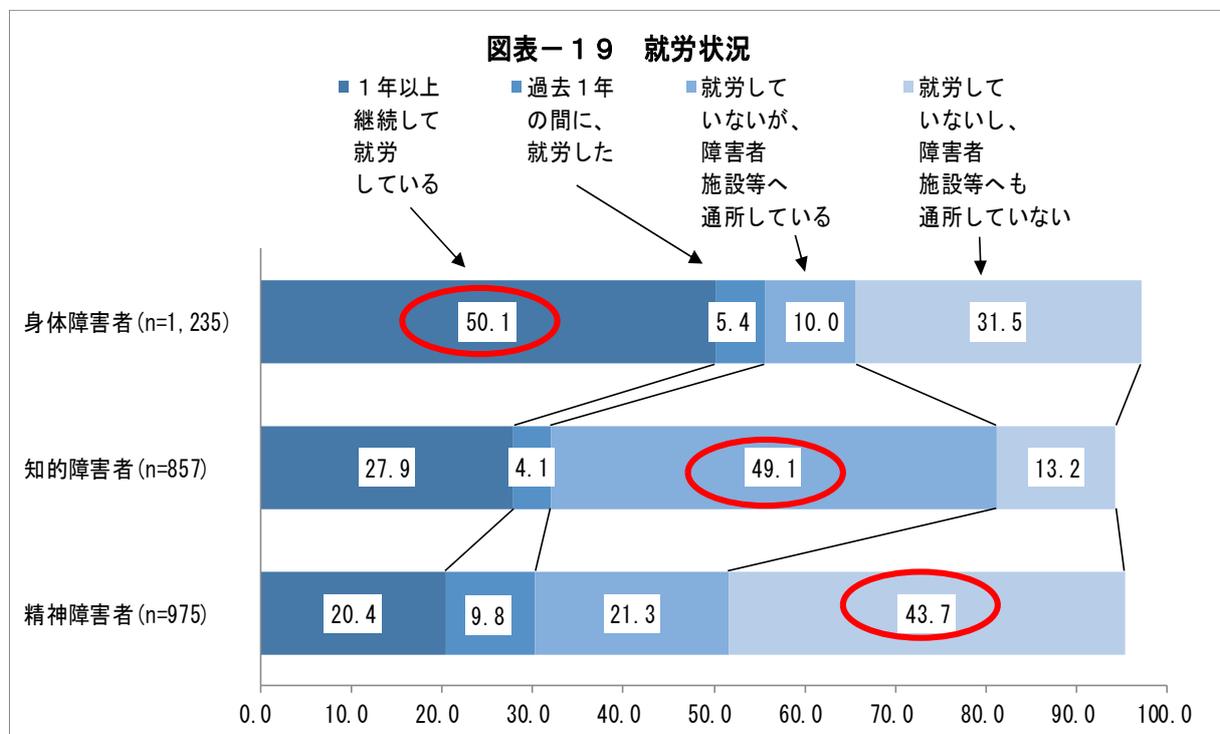
就労の状況を尋ねた。

「1年以上継続して就労している」「過去1年の間に、就労した」「就労していないが、障害者施設等へ通所している」「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」の4項目とした。

「1年以上継続して就労している」では、「身体障害者」が50.1%と最も高く、次に「知的障害者」が27.9%である。

「就労していないが、障害者施設等へ通所している」では、「知的障害者」が49.1%と最も高く、次に「精神障害者」が21.3%である。

「就労していないし、障害者施設等へも通所していない」では、「精神障害者」が43.7%と最も高く、次に「身体障害者」が31.5%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

②就労継続できる理由

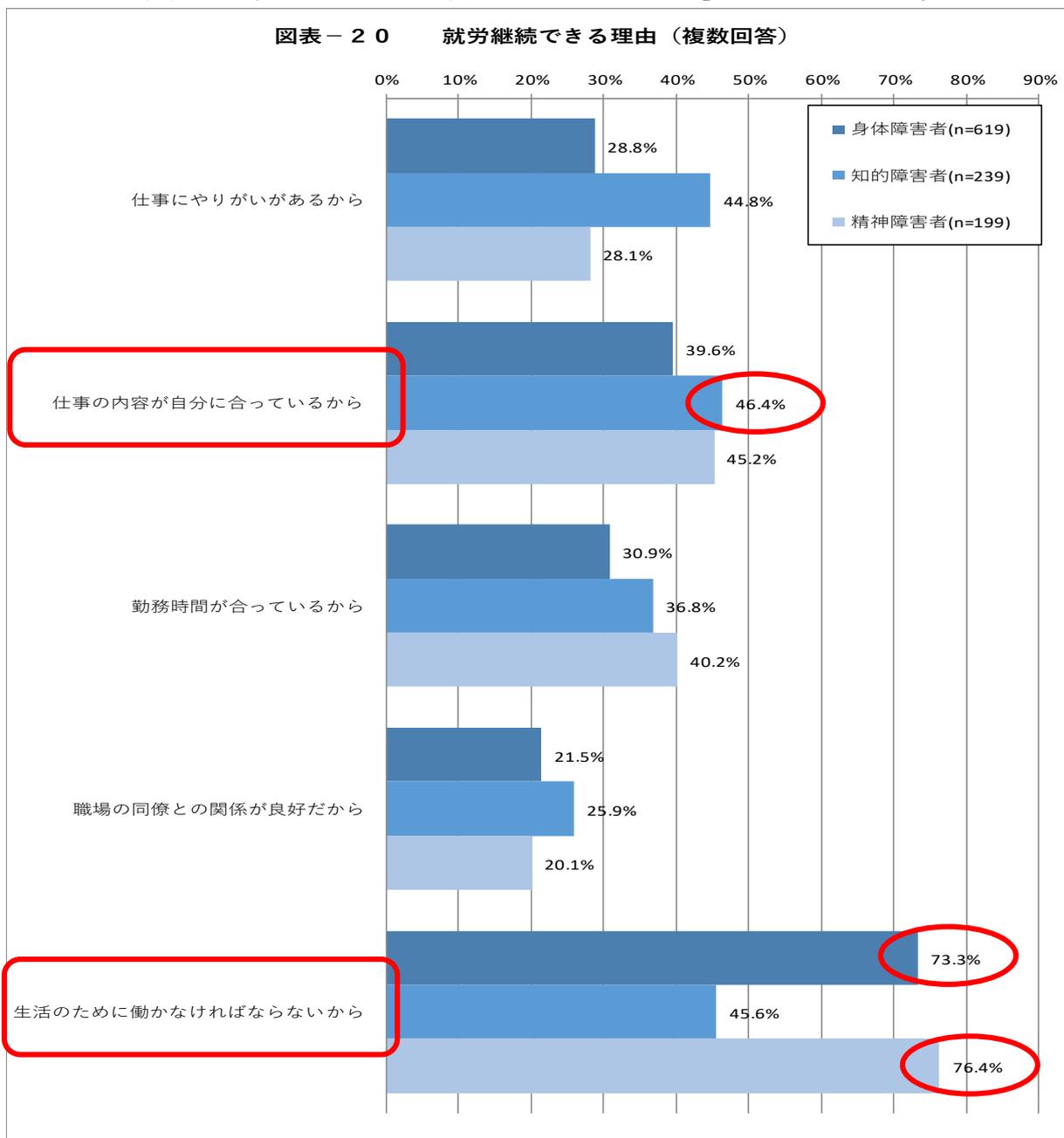
就労を継続できる理由を尋ねた。

「仕事にやりがいがあるから」「仕事の内容が自分に合っているから」「勤務時間が合っているから」「職場の同僚との関係が良好だから」「生活のために働かなければならないから」を含めて9項目を複数回答とした。

「身体障害者」では、「生活のために働かなければならないから」が73.3%と最も高く、次に「仕事の内容が自分に合っているから」が39.6%である。

「知的障害者」では、「仕事の内容が自分に合っているから」が46.4%と最も高く、次に「生活のために働かなければならないから」が45.6%である。

「精神障害者」では、「生活のために働かなければならないから」が76.4%と最も高く、次に「仕事の内容が自分に合っているから」が45.2%である。



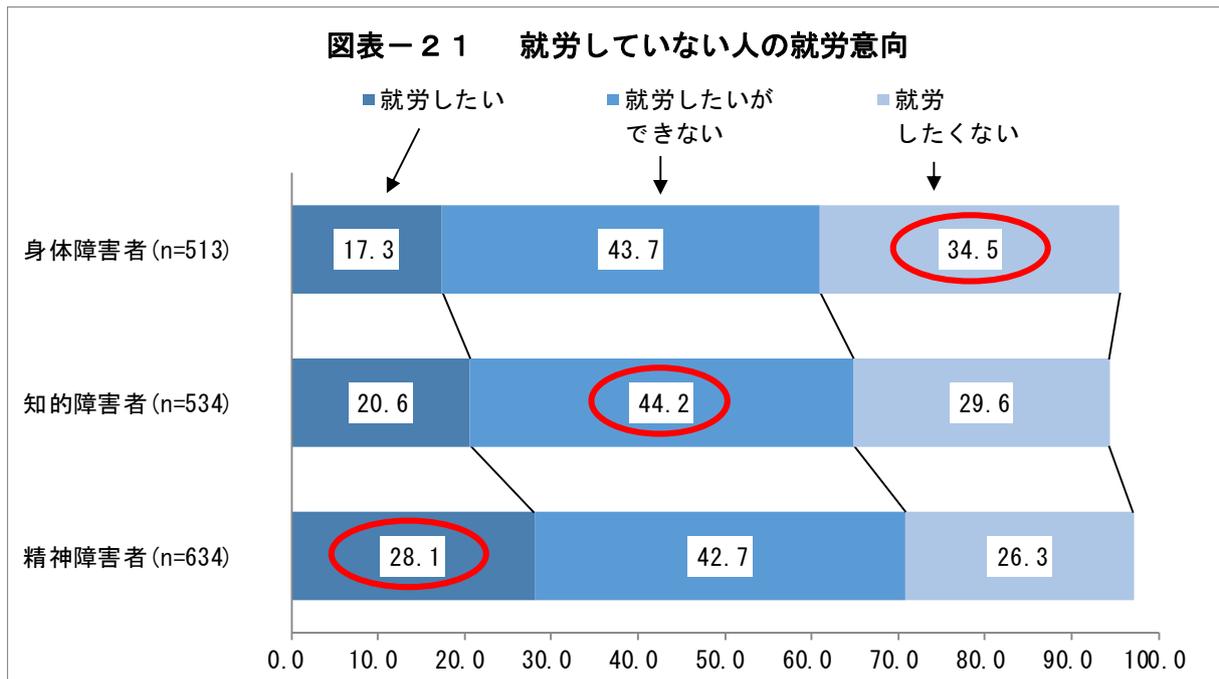
③就労していない人の就労意向

「就労したい」「就労したいができない」「就労したくない」を尋ねた。

「就労したい」では、「精神障害者」が28.1%と最も高く、次に「知的障害者」が20.6%である。

「就労したいができない」では、「知的障害者」が44.2%と最も高く、次に「身体障害者」が43.7%である。

「就労したくない」では、「身体障害者」が34.5%と最も高く、次に「知的障害者」が29.6%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

④就労するために必要なこと

就労するために必要なことを尋ねた。

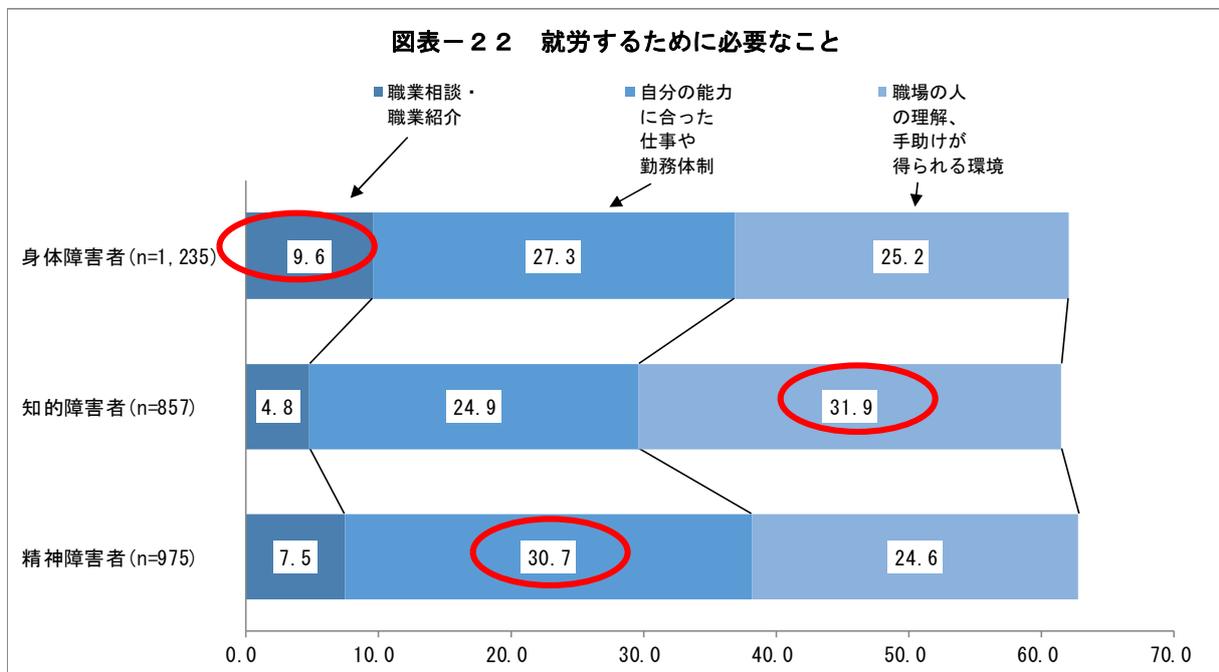
「職業相談・職業紹介」「自分の能力に合った仕事や勤務体制」「職場の人の理解、手助けが得られる環境」を含めて8項目とした。

「職業相談・職業紹介」では、「身体障害者」が9.6%と最も高く、次に「精神障害者」が7.5%である。

「自分の能力に合った仕事や勤務体制」では、「精神障害者」が30.7%と最も高く、次に「身体障害者」が27.3%である。

「職場の人の理解、手助けが得られる環境」では、「知的障害者」が31.9%と最も高く、次に「身体障害者」が25.2%である。

「その他」の具体的内容は、「自分の気持ち」「健康であること」「専門職の支援」が多い。



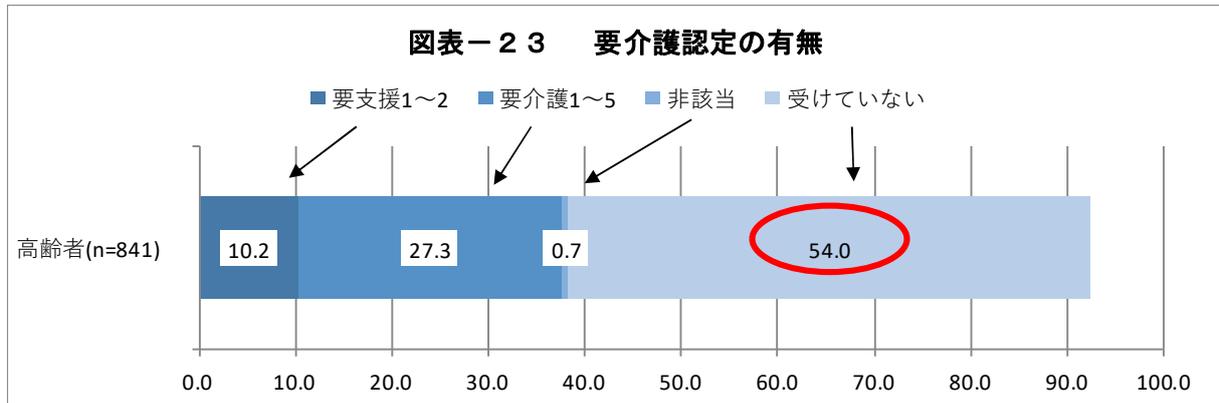
※上記3項目以外と無回答は割合が低いため除いてある。

8. 介護保険サービスの利用について（E票）

①要介護認定の有無

介護保険の要介護認定を尋ねた。「要支援」、「要介護」、「非該当」、「受けていない」に纏めた。

「要支援1～2」が10.2%、「要介護1～5」が27.3%、「非該当」が0.7%である。また、「受けていない」が54.0%と最も高い。

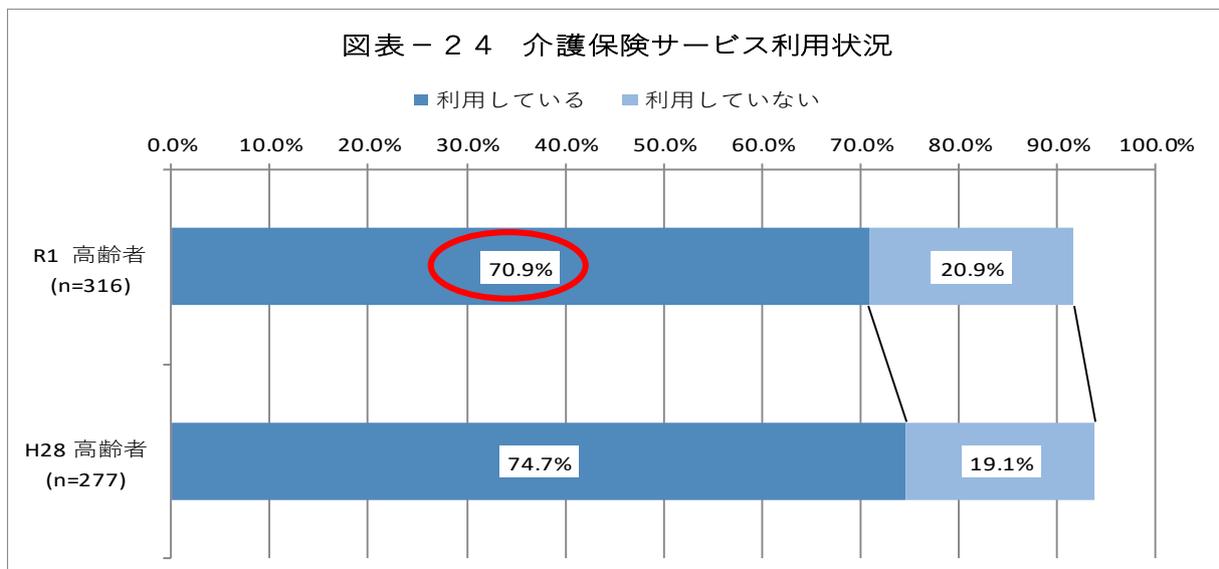


※無回答は割合が低いため除いてある。

②介護保険サービス利用状況

「利用している」「利用していない」を尋ねた。

「利用している」が70.9%と高く、「利用していない」が20.9%と低い。H28と経年比較すると、「利用している」は4ポイントほど低い。



※無回答は割合が低いため除いてある。

9. 入院・通院について

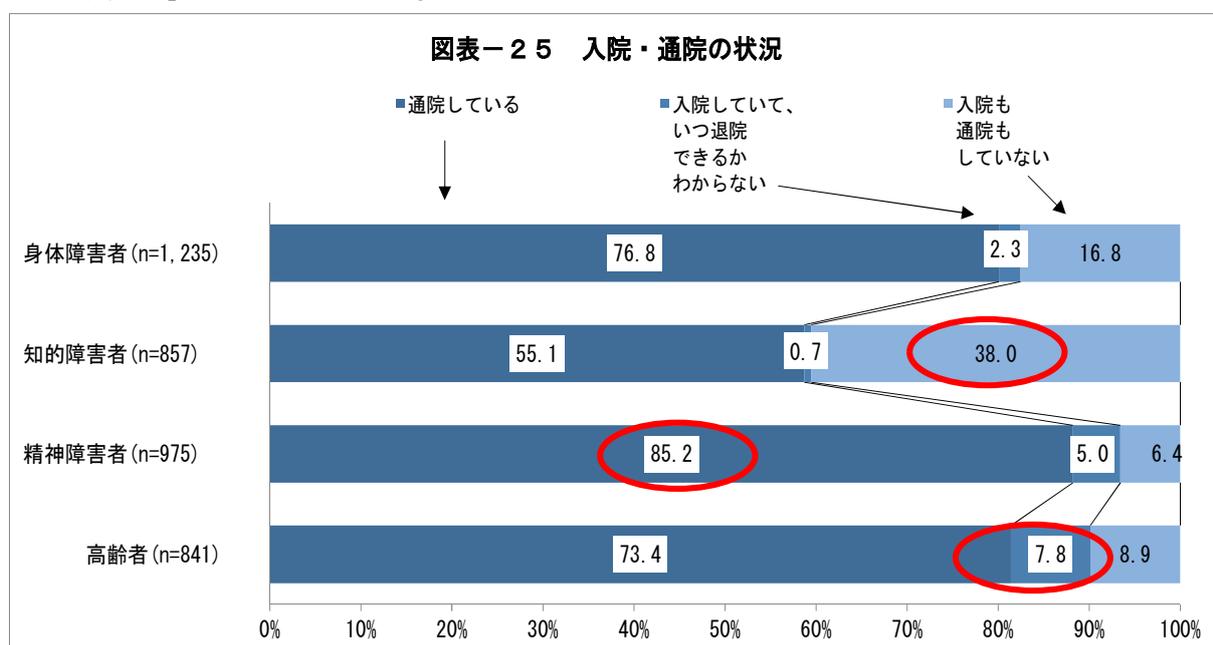
入院や通院について尋ねた。

「通院している」「入院していて、いつ退院できるかわからない」「入院しているが、体調や生活環境がよければ退院したい」「入院しているが、住む場所さえ見つければ、すぐにでも退院したい」「入院も通院もしていない」「その他」の6項目とした。

「通院している」では、「精神障害者」が85.2%と最も高く、次に「身体障害者」が76.8%である。

「入院していて、いつ退院できるかわからない」では、「高齢者」が7.8%と最も高く、次に「精神障害者」が5.0%である。

「入院も通院もしていない」では、「知的障害者」が38.0%と最も高く、次に「身体障害者」が16.8%である。



※上記3項目以外と無回答は割合が低いため除いてある。

10. 外出について

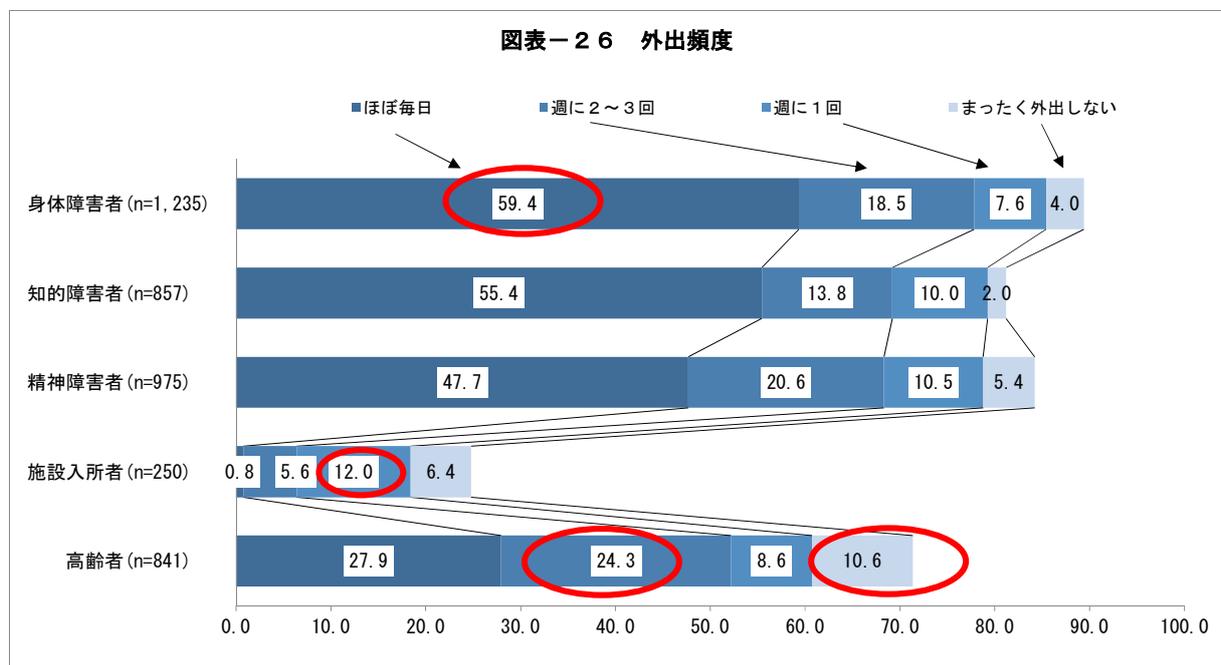
外出の頻度を尋ねた。「ほぼ毎日」「週に2～3回」「週に1回」「月に2～3回」「月に1回」「年に数回」「まったく外出しない」の7項目とした。

「ほぼ毎日」では、「身体障害者」が59.4%と最も高く、次に「知的障害者」が55.4%である。

「週に2～3回」では、「高齢者」が24.3%と最も高く、次に「精神障害者」が20.6%である。

「週に1回」では、「施設入所者」が12.0%と最も高く、次に「精神障害者」が10.5%である。

「まったく外出しない」では、「高齢者」が10.6%と最も高く、次に「精神障害者」が5.4%である。



※上記4項目以外と無回答は割合が低いため除いてある。

※施設入所者は、「年に数回」が33.6%と最も高く、次に「月に1回」が20.0%である。

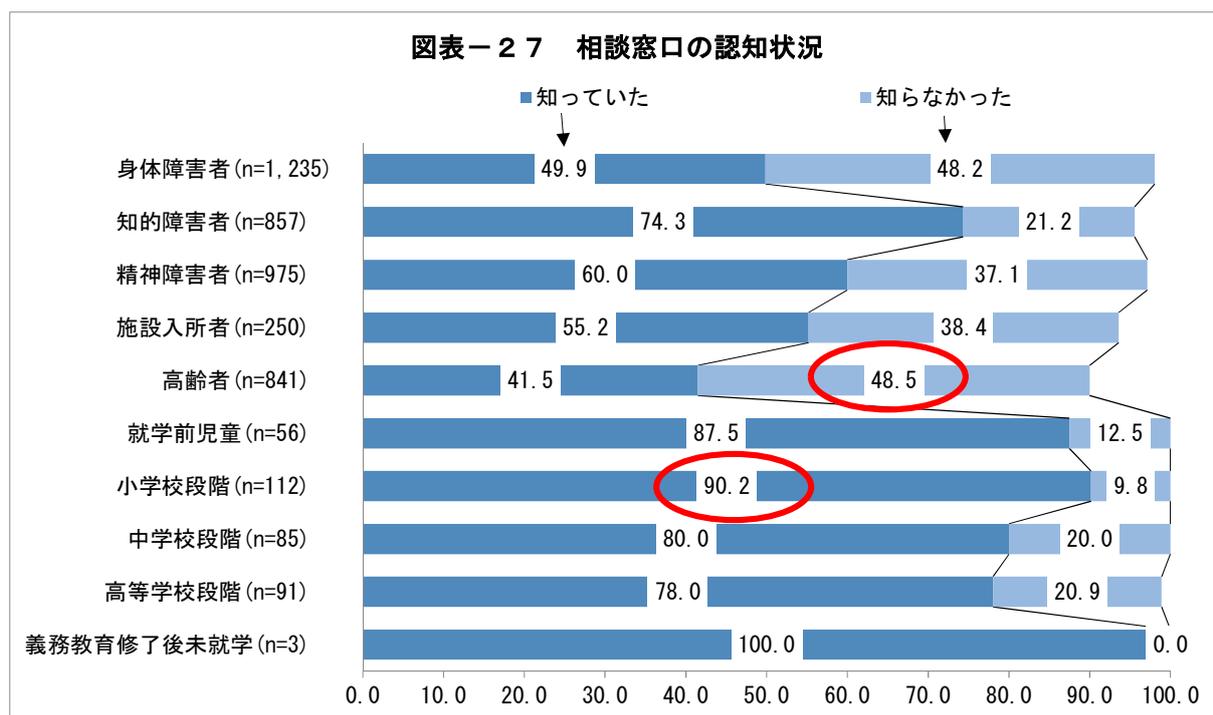
11. 相談窓口について

①相談窓口の認知状況

「知っていた」「知らなかった」を尋ねた。

「知っていた」（義務教育修了後未就学を除く）では、障害児である「小学校段階」が90.2%と最も高く、次に「就学前児童」が87.5%である。また「知的障害者」も74.3%である。

「していない」では、「高齢者」が48.5%と最も高く、次に「身体障害者」が48.2%である。また身体障害者、精神障害者、施設入所者は、ともに30%以上である。

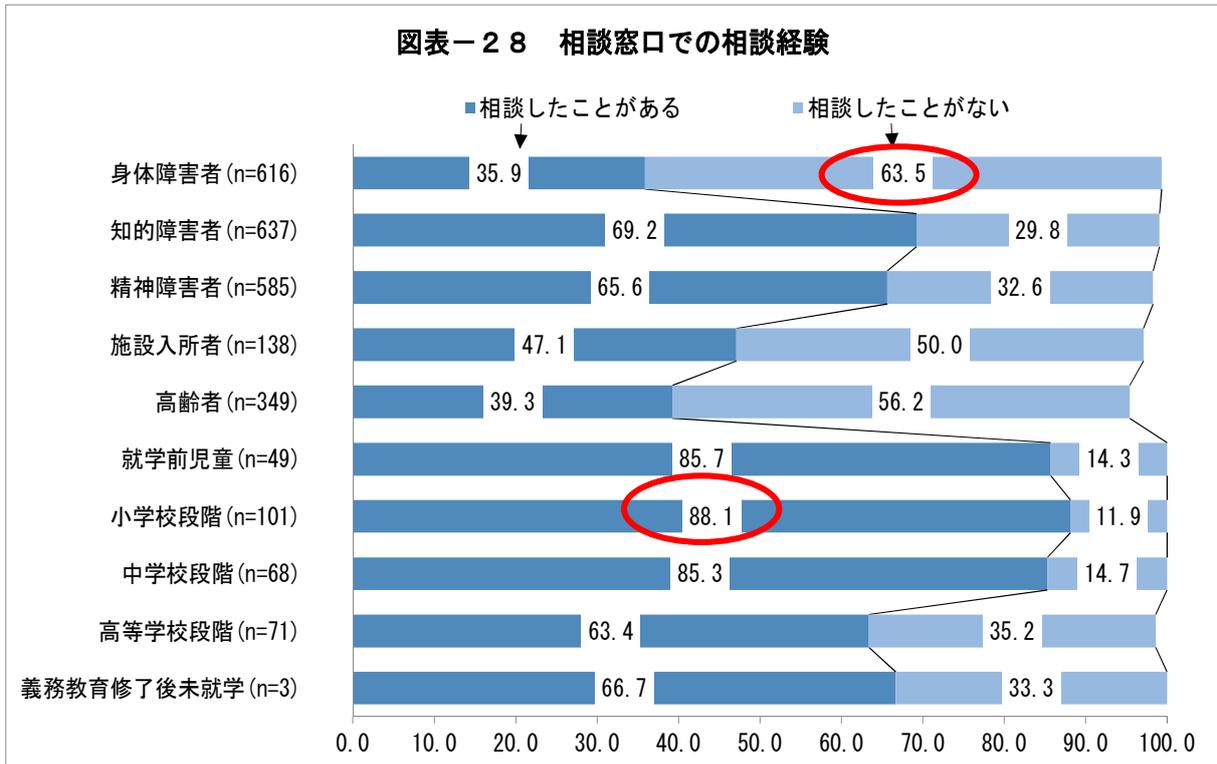


※無回答は割合が低いため除いてある。

②相談窓口での相談経験

「相談したことがある」「相談したことがない」を尋ねた。

「相談したことがある」では、障害児である「小学校段階」が88.1%と最も高く、次に「就学前児童」が85.7%である。また「知的障害者」も69.2%である。「相談したことがない」では、「身体障害者」が63.5%と最も高く、次に「高齢者」が56.2%、「施設入所者」が50.0%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

12. 災害時について

災害時に困ることや心配なことを尋ねた。「避難場所を知らない」「避難場所まで行けない」「緊急時に助けてくれる人がいない」「緊急時に情報を得る手段がない」「避難場所で必要なケアが受けられるか不安(生活上の介助や医療・服薬など)」「その他」の6項目とした。

「避難場所を知らない」では、「精神障害者」が18.2%と最も高く、次に「知的障害者」が15.3%である。

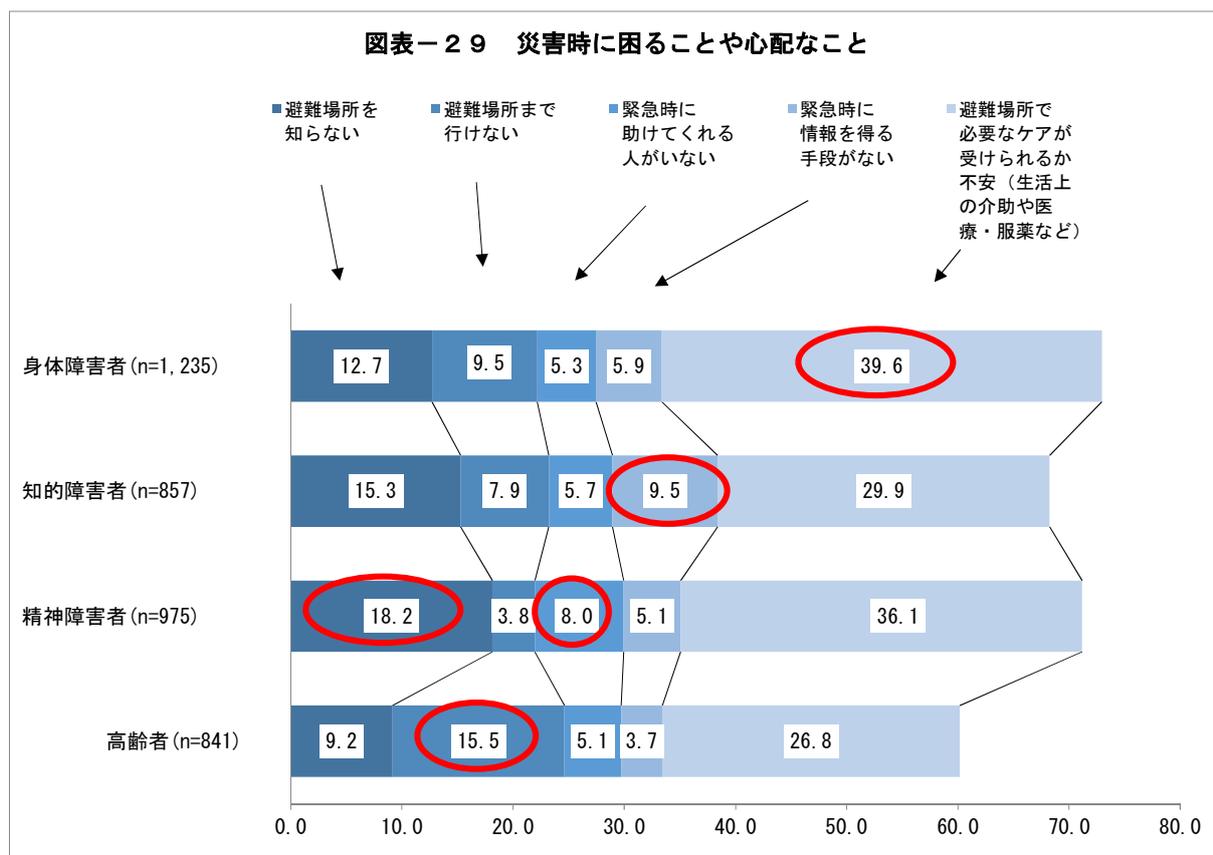
「避難場所まで行けない」では、「高齢者」が15.5%と最も高く、次に「身体障害者」が9.5%である。

「緊急時に助けてくれる人がいない」では、「精神障害者」が8.0%と最も高く、次に「知的障害者」が5.7%である。

「緊急時に情報を得る手段がない」では、「知的障害者」が9.5%と最も高く、次に「身体障害者」が5.9%である。

「避難場所で必要なケアが受けられるか不安(生活上の介助や医療・服薬など)」では、「身体障害者」が39.6%と最も高く、次に「精神障害者」が36.1%である。

「その他」の具体的内容は、「パニック」「環境の変化」「他の人との共同生活」「家族と会えるか不安」が多い。



※「その他」と無回答は割合が低いため除いてある。

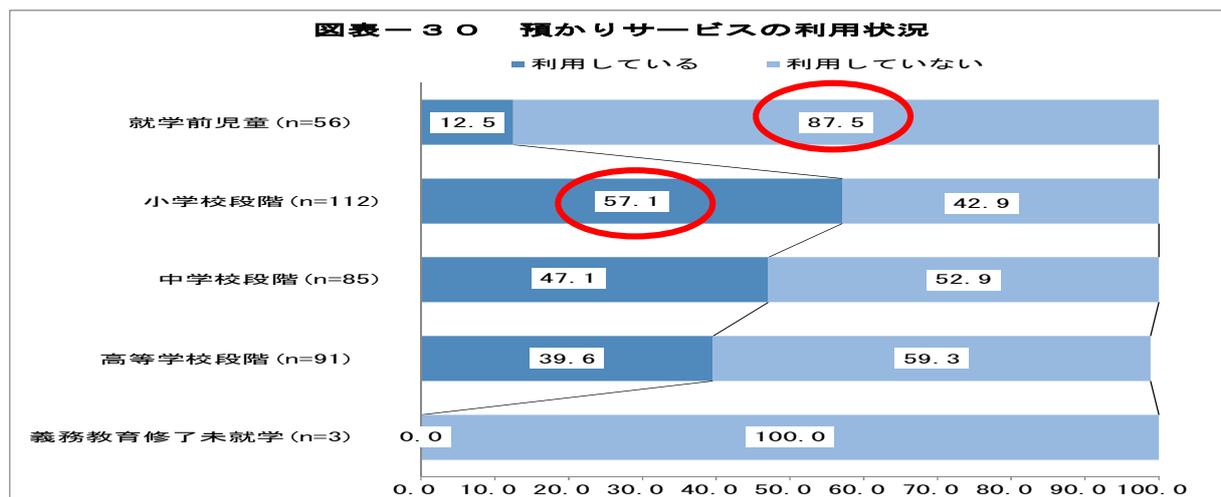
13. 預かりサービスについて (F票)

① 預かりサービスの利用状況

「利用している」「利用していない」を尋ねた。

「利用している」では、「小学校段階」が 57.1%と最も高く、次に「中学校段階」が 47.1%である。

「利用していない」では、「就学前児童」が 87.5%と最も高く、次に「高等学校段階」が 59.3%である。



※義務教育修了後未就学は回答数が少ないため、無回答は割合が低いと除いてある。

② 預かりサービスの利用内容

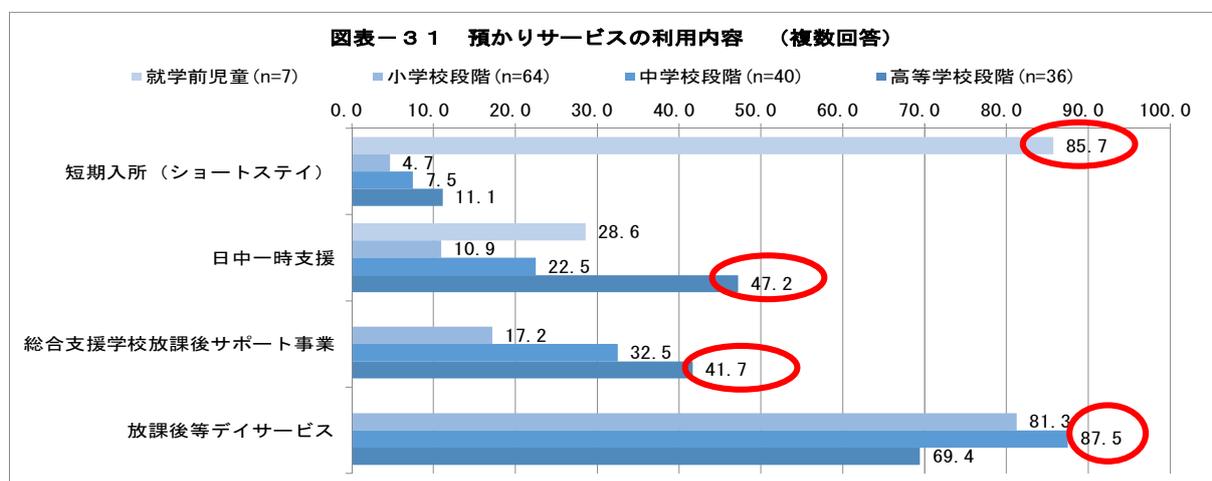
「短期入所 (ショートステイ)」「日中一時支援」「総合支援学校放課後サポート事業」「放課後等デイサービス」を含めて 7 項目を複数回答とした。

「短期入所 (ショートステイ)」では、「就学前児童」が 85.7%と最も高い。

「日中一時支援」では、「高等学校段階」が 47.2%と最も高い。

「総合支援学校放課後サポート事業」では、「高等学校段階」が 41.7%と最も高い。

「放課後等デイサービス」では、「中学校段階」が 87.5%と最も高く、次に「小学校段階」が 81.3%である。



③ 預かりサービスの利用度

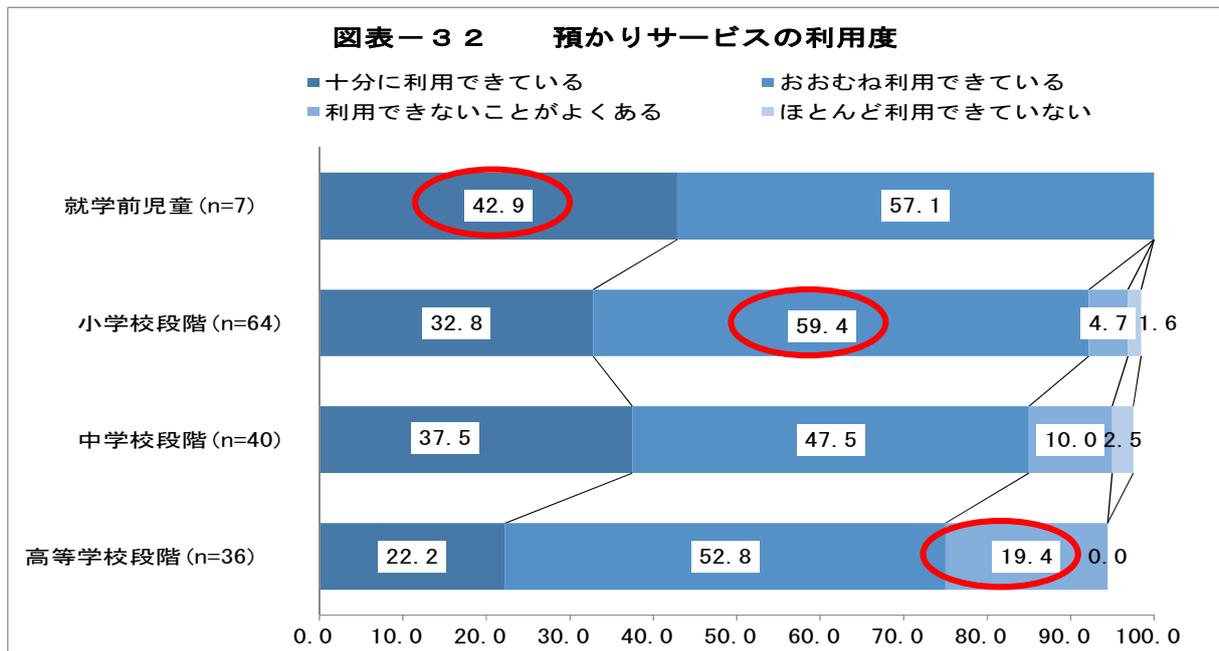
預かりサービスの利用状況を尋ねた。

「十分に利用できている」「おおむね利用できている」「利用できないことがよくある」「ほとんど利用できていない」の4項目とした。

「十分に利用できている」では、「就学前児童」が42.9%と最も高く、次に「中学校段階」が37.5%である。

「おおむね利用できている」では、「小学校段階」が59.4%と最も高く、次に「就学前児童」が57.1%である。

「利用できないことがよくある」では、「高等学校段階」が19.4%と最も高く、年齢が上がるごとに割合が高い。



※義務教育修了後未就学は回答数が少ないため、無回答は割合が低いいため除いてある。

14. 障害のある人への差別について

障害を理由として差別されたと感じた場面を尋ねた。

「情報の取得や利用・意思疎通の場面」「買い物・外食の場面」「医療に関する場面」「雇用に関する場面」「差別を感じたことはない」を含めて11項目を複数回答とした。

「情報の取得や利用・意思疎通の場面」では、「精神障害者」が12.1%と最も高い。

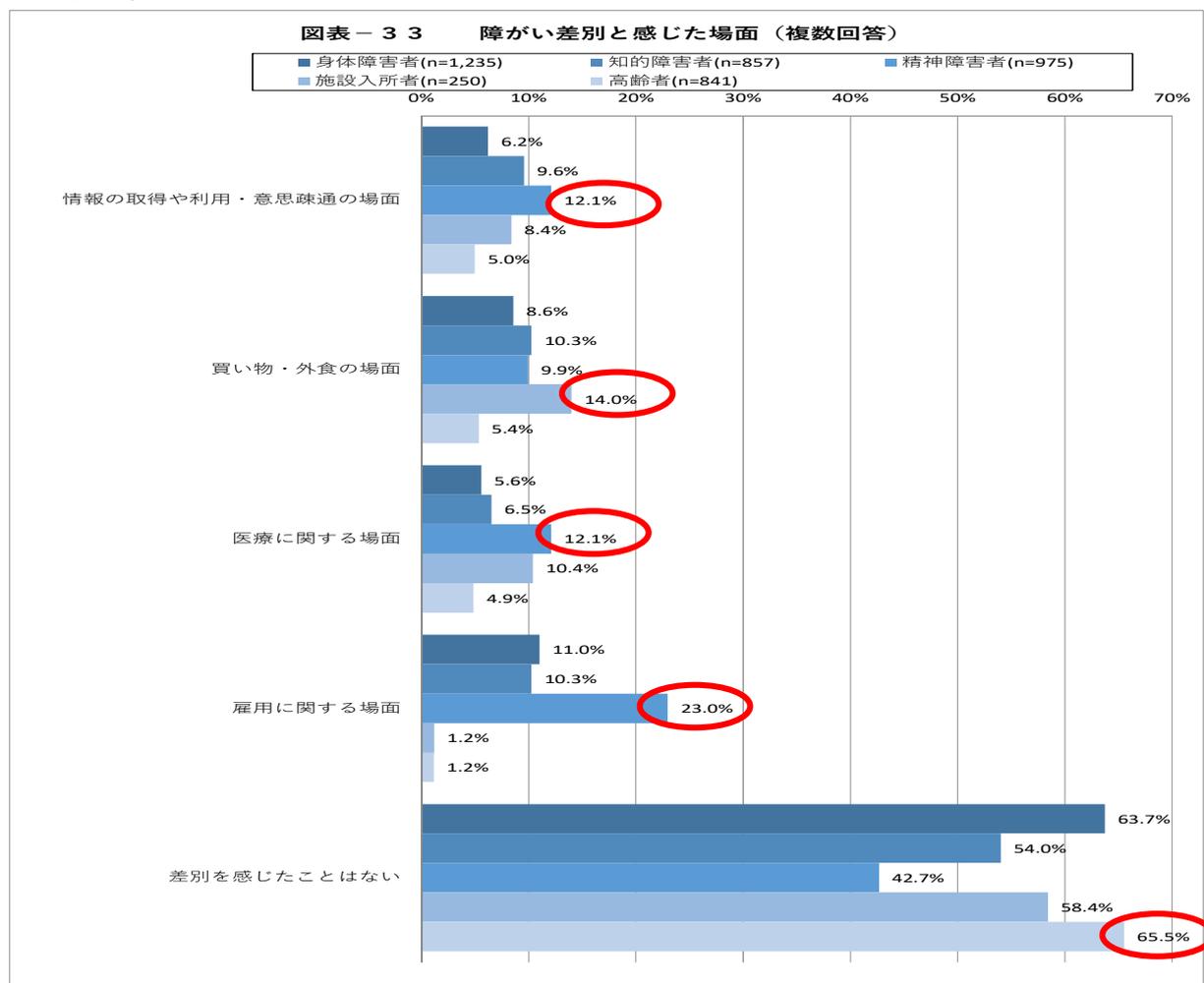
「買い物・外食の場面」では、「施設入所者」が14.0%と最も高い。

「医療に関する場面」では、「精神障害者」が12.1%と最も高い。

「雇用に関する場面」では、「精神障害者」が23.0%と最も高い。

「差別を感じたことはない」では、「高齢者」が65.5%と最も高く、次に「身体障害者」が63.7%である。

「その他」の具体的内容は、「他人の視線」「他人と異なった行動をしたとき」が多い。



障害児で見ると

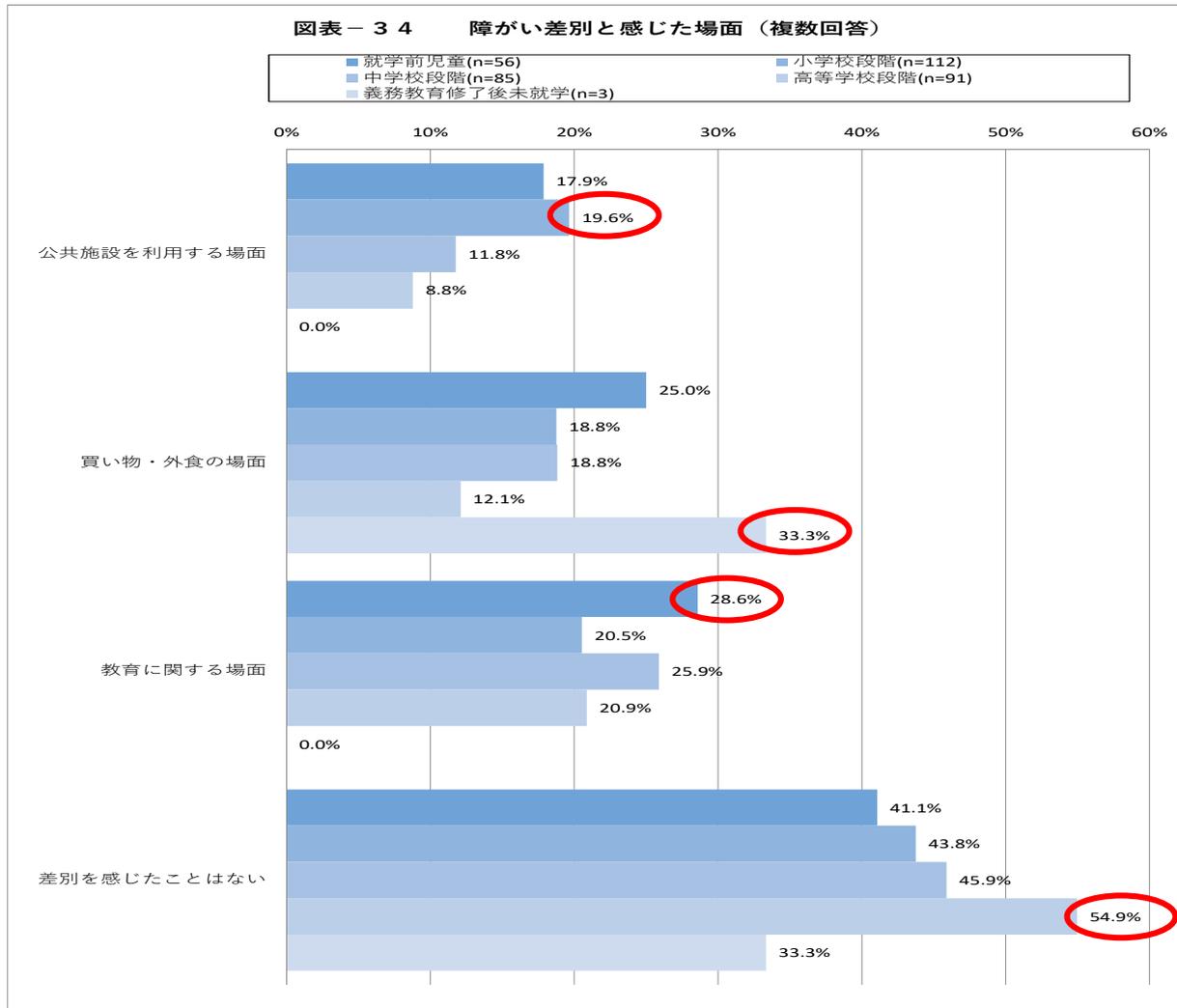
「公共施設を利用する場面」では、「小学校段階」が19.6%と最も高い。

「買い物・外食の場面」では、「義務教育修了未就学児」が33.3%と最も高い。

「教育に関する場面」では、「就学前児童」が28.6%と最も高い。

「差別を感じたことはない」では、「高等学校段階」が54.9%と最も高く、次に「中学校段階」が45.9%である。

「その他」の具体的内容は、「他人の視線」が多い。

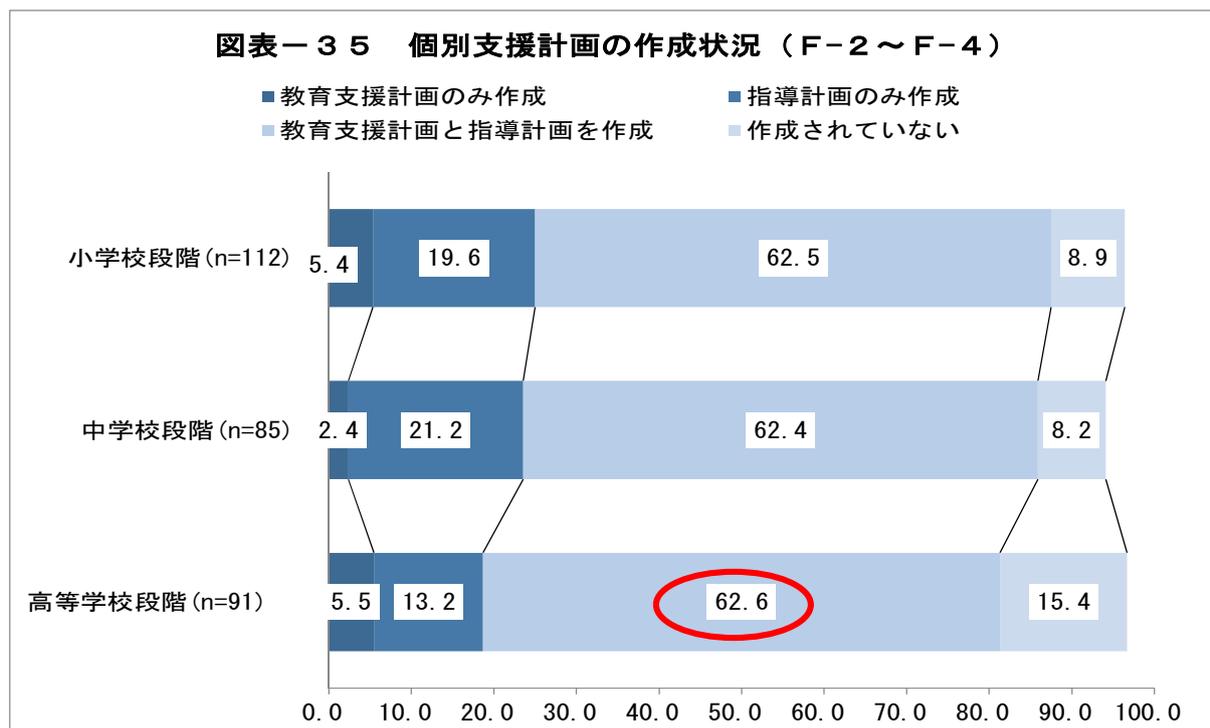


15. 個別の教育支援計画及び指導計画について

個別支援計画の作成状況について尋ねた。

「個別の教育支援計画」のみが作成されている」「個別の指導計画」のみが作成されている」「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」が作成されている」「作成されていない」の4項目とした。

「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」が作成されている」では、「高等学校段階」が62.6%と最も高く、次に「小学校段階」が62.5%、「中学校段階」が62.4%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

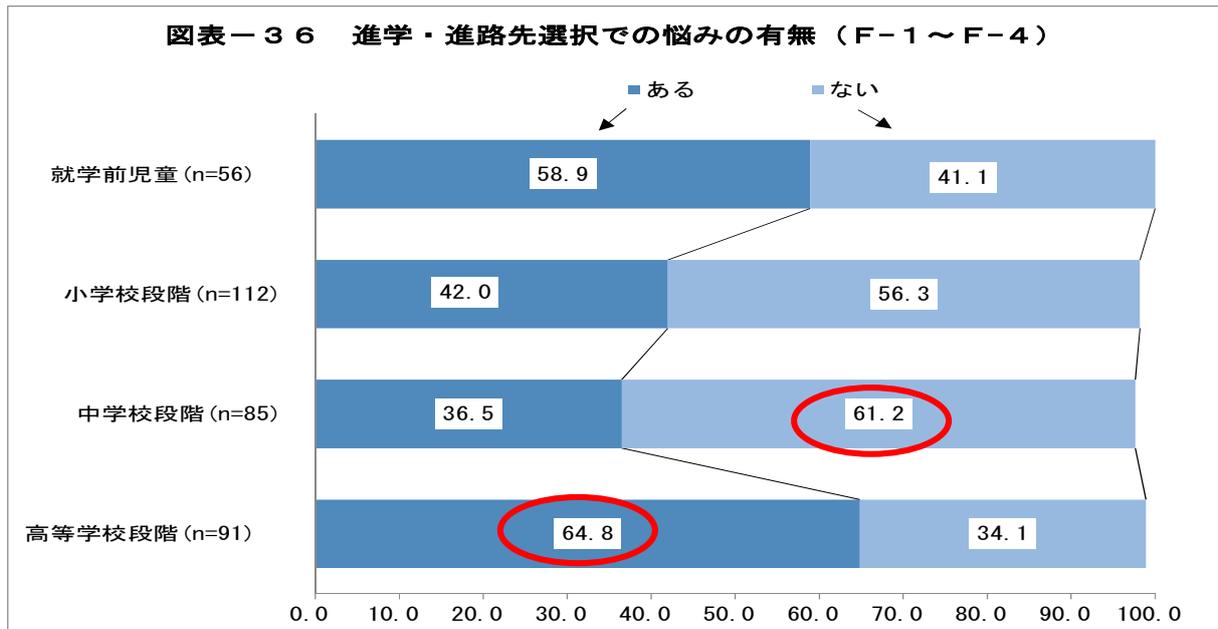
16. 進学・進路先について

①進学・進路先選択での悩みの有無

「ある」「ない」を尋ねた。

「ある」では、「高等学校段階」が64.8%と最も高く、次に「就学前児童」が58.9%である。

「ない」では、「中学校段階」が61.2%と最も高く、次に「小学校段階」が56.3%である。



※無回答は割合が低いため除いてある。

②進路先選択での悩んでいる理由

進路先を選択することで悩んでいる理由を尋ねた。

「進路が決まっていないから」「自分の適性がわからないから」「希望する進路先についての情報がないから」「勉強についていけるかどうか心配だから」を含めて9項目を複数回答とした。

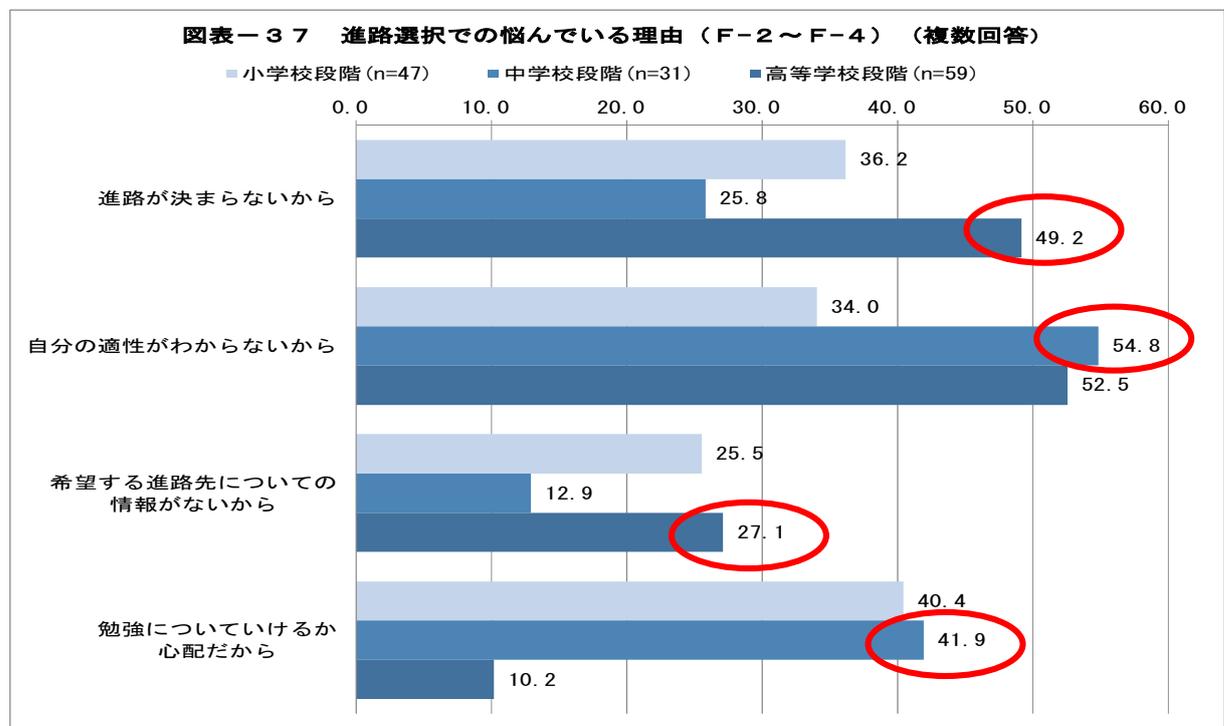
「進路が決まっていないから」では、「高等学校段階」が49.2%と最も高い。

「自分の適性がわからないから」では、「中学校段階」が54.8%と最も高く、次に「高等学校段階」が52.5%である。

い。

「希望する進路先についての情報がないから」では、「高等学校段階」が27.1%と最も高く、次に「小学校段階」が25.5%である。

「勉強についていけるかどうか心配だから」では、「中学校段階」が41.9%と最も高く、次に「小学校段階」が40.4%である。



※上記4項目以外と無回答は割合が低いため除いてある。

17. 意見・要望など

自由記述として回答のあった主な項目である。

職場・家族・医療者の理解がある
親の介護
公共施設の料金減額
生命保険に加入できない
得意なことと不得意なことがある
雇用機会の拡大
親の死後が不安
移動手段の確保
苦情受付の周知
サービスの充実
サービスの手続きが複雑
漢字が読めない・ふりがなを希望
ヘルプカードやヘルプマークを広めてもらいたい
年金制度の充実
障害者がクレマーと思われる
障害者のひきこもり対策
あいさつの励行
障害者の集団生活の支援
生きづらい
相談が解決につながらない